

基 礎 分 野

目 的

人間と生活について理解し、自由で主体的な判断と行動ができる基礎能力を養う。

16単位 (375時間)

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
科学的思考の基盤	論理的思考・文章表現	1	30	} 1年次
	教育学	1	15	
	物理学	1	15	
	情報科学	1	30	} 2年次
	統計学	1	15	
人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	} 1年次
	社会学	1	30	
	人間関係論	1	30	
	生活科学	1	30	
	文 学	1	30	2年次
	レクリエーション	1	30	1年次
	文化人類学	1	15	2年次
	英 語	1	30	1年次
	英会話Ⅰ	1	15	2年次
	英会話Ⅱ	1	15	3年次
	体 育	1	15	3年次

論理的思考・文章表現

講師名 崔 昌鳳

ねらい

論理的に考え、話し、書くということがどのようなことであるかを理解し、実践できる。

1. 事実や意見を論理的に表現できる文章力を獲得する
2. 読む・聞く・考える・書く・話すことができる基礎能力をつける

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 論理とはなにか？ ①論証 ②論理的表現	2	講 義	筆記試験 レポート
2. 論理的表現 ①接続関係 ②接続の構造 ③議論の組み立て	6		
3. 論証 ①事実と意見 ②論証の構造と評価 ③演繹と推測 ④価値評価	8		
4. 文章表現総合トレーニング ①事実と意見 ②構成表 ③文章作成演習	14		

参考文献

書 名	編・著者名	発行所
看護学生のためのレポートの書き方教室	江原 勝幸	照林社

教 育 学

講師名 上野 耕三郎

ねらい

看護と教育には限りなく深い共通性がある。看護師を目指す学生が、教育学を学ぶ意味は看護そのものについての理解を深めることであり、職業能力育成に大きく関わっている。その関係性を明らかにすることで看護師に必要な資質の一端を理解する。

1. 人間の成長・発達についての理解
2. 学習や指導の方法についての理解
3. 学習に関わる事項を学び、自己の学習能力を育てる
4. 看護の対象とのコミュニケーションや指導・教育技術に応用できる基礎・基本を学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 教育とはどのようなものか 2. 学習から教育へ 3. 現代社会と教育をめぐる問題 4. 社会機能としての教育制度 5. 職業資格制度と学校教育 6. 学ぶことと教えること 7. カウンセリングの方法 8. 看護と教育	15	講 義	出席・受講の 状況 及び 小レポートの 提出 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系 看護学全書 基礎分野 教育学	荒川 智	メヂカルフレンド社

物 理 学

講師名 藤吉 雅幸

ねらい

1. 日常生活における物理現象について学ぶ
2. 科学に関心が持てる
3. 看護技術と物理現象の関連を学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 物理と数学 ベクトルと三角比、方程式 2. 力の物理 －体位変換・ボディメカニクス of 原理、点滴の落ちる速度について－ 速さと時間、加速度 エネルギーと仕事 てこの原理とその一般化 3. 気体と流体の物理 －酸素ボンベ・低圧持続吸引装置・胃洗浄とサイフォンについて－ 気体のエネルギーと圧力 流体の基本的な性質	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系 看護学全書 基礎科目 物理学	平田 雅子	メヂカルフレンド社

情報科学

講師名 太田 直子 須藤 香

ねらい

1. 情報の伝達・処理・貯蔵について学ぶ
2. コンピュータ (Word・PowerPoint・Excel) の基礎知識を得て、操作ができるようになる

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. PC 概要説明・Word の基本操作 2. 文書の編集と書式設定 3. 表現力を UP する文書の作成(ワードアート/クリップアート/図形) 4. 表を使用したビジネス文書の作成 5. Excel の基本操作(ワークシートの作成) 6. 簡単な計算式と関数 7. PowerPoint の基本操作 8. スライドの作成(プレースホルダの編集) 9. スライドの作成(図形) 10. 画面切り替え効果 11. 定期試験	30	講 義 実 技	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
よくわかる Word2016 & Excel2016 & PowerPoint2016		FOM 出版

統 計 学

講師名 金子 明

ねらい

統計学は研究分野のみならず、日常生活でも広く使われている。看護を学ぶ人にとっても、統計学の基本的な考え方の習得が必要とされている。この講義では統計学の基本的な知識と分析技術を学習する。

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. データの集め方、データの分析 2. 分布の代表値と散布度 3. 正規分布、母平均の推定 4. 割合と割合の差の検定 5. 平均値の差の検定 6. 相関図、回帰直線と相関係数 7. クロス集計と検定	11	講 義	筆記試験
8. 自分たちを対象としたアンケートの作成・実施・集計・分析	4	演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
「ナースのための統計学」第2版	高木 廣文著	医学書院

心 理 学

講師名 杉野 佑太

ねらい

1. 心理学を通して自己を見つめ、看護師としての資質に富んだ自己確立を目指す
2. 人の心や行動を体験的に学び他者理解を深める
3. 心理的配慮が求められる事例の学習により、高度な心理学的スキルを身につける

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 心理学とは (実験法を通して) 2. 知覚 3. 記憶 4. 学習 5. 集団 6. 知能 (知能指数) 7. 心理学的自己分析 (質問紙法) 8. 心理学的自己分析 (作業法) 9. 人格・適応 10. 心理療法の実際 (認知行動療法・うつ病) 11. 発達理論 (遺伝と環境) 12. 発達 (胎児・新生児・乳児) 13. 発達 (幼児・児童・青年) 14. 事例から学ぶ患者の心理と対応 15. まとめ	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 6 心理学	辰野 千寿	医学書院

社 会 学

講師名 谷川 豊

ねらい

社会学の基本テーマは、人間と人間の関係や人間と社会のあり方を解明することである。

1. 社会的存在としての人間を理解するとともに、多様な社会の中で幅広い物の見方ができるようになる
2. 社会のしくみと機能について理解し、社会で生活することの意味を考えることができる
3. 社会を多面的に理解し、社会ニーズとしての保健・医療・福祉を学ぶための基礎知識を得る

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 社会とは何か 2. 社会の成立 3. 人間の社会—人間と社会の関係 4. 社会と国家 5. 現代日本社会の基礎構造 6. 家族とは何か 7. 家族の形成 8. 家族の機能と構造 9. 現代家族の諸問題 10. 地域社会 11. 少産・高齢社会 12. 老人の欲求構造と不安 13. 社会問題、生活問題 14. 社会と行政 15. 福祉国家	30	講 義	筆記試験

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
面白くて眠れなくなる社会学	橋爪 大三郎	PHP 研究所

人間関係論

講師名 五十嵐 教行

ねらい

医療に携わる専門職にとって、患者とその家族との良好な人間関係の構築は必須となる。また、職場における上司、同僚、他の専門職との良好な人間関係の構築も極めて重要である。そのためには、よりよいコミュニケーションをとる必要がある。

本講義では、コミュニケーション成立のための基本条件や「伝える」「聴く」ということについての基礎知識について学ぶ。

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. コミュニケーションの成立条件 2. 自己覚知 ・自分の価値観や道徳観についての理解 ・他者の価値観や道徳観についての理解 3. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 4. 「心に届く話し方」①事実を伝える 5. 「心に届く話し方」②気持ちを伝える 6. 「心に届く話し方」③声の抑揚やスピード 7. 「傾聴の基本」①聴く時の姿勢 8. 「傾聴の基本」②受容的態度と共感的態度 9. 「傾聴の基本」③非審判的態度 10. 「傾聴技法」①うなずきと相づち 11. 「傾聴技法」②効果的な質問技法 12. 「傾聴技法」③繰り返し 13. 訴えの多い患者と訴えない患者についての傾聴の方法 14. 援助関係とコミュニケーション 15. 患者の気持ちに寄り添うためのコミュニケーション	30	講 義 演 習	レポート 学習発表

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

生活科学

講師名 青山 重美

ねらい

生活科学の大きな目的は、①生活を科学的に理解し、②生活の中に科学を生かすことにより、人間の日々の生活の充実と発展を目指すところにある。

この生活科学の基礎的理論や歴史・思想にふれつつ、自己と他者の生活を大切に守り、心身ともに健康で幸福な人生を生きぬく術を身につけて欲しい。また、科学というものは仮説から出発し、絶えず進歩・発展・変化するという宿命と限界性をもっているため、固定的な知識よりも、流動的な応用力と論理的思考方法を、各自が実験・体験学習から学び取ることを期待したい。

1. 衣・食・住生活の基本について学び、人間の暮らしについて理解する
2. 看護における日常生活の援助を行うための基礎知識について学ぶ

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 生活科学とは I 生活科学の目的、範囲	30	講 義 毎時、ディスカッション、または簡単な実験・体験学習をグループ単位で実施	レポート
2. 生活科学とは II 生活科学の考え方と実践方法			平常点 (積極性)
3. 家族と家庭生活 (現代家族の諸問題、家庭創設の意義)			学習発表
4. 家庭経営と経済(家庭生活の維持管理)			
5. 衣生活～基礎(天然繊維、合成繊維他)			
6. 衣生活～応用(寝装寝具類の重要性)			
7. 食生活～基礎(食生活指針、栄養と健康)			
8. 食生活～応用(調理実習)			
9. 住生活～基礎(住環境とまちづくり)			
10. 住生活～応用(安全な住まい、災害と住生活)			
11. 地球の環境問題と生活者の役割(大気・水・ゴミ問題を中心に) 学習発表 I (前半4G) 学習発表 II (後半4G) 学習発表講評・まとめ (21世紀の生活像)			
12. フリー(学生と相談の上決定)			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
生活科学 第6版	中根 芳一	オーム社

文 学

講師名 榎本 卓史

ねらい

1. 読書に親しみ、日本および海外の作品を通じて情緒や感性、多様な視点を養う
2. 自らの経験や心情を文章で的確に表現する
3. 物語を創造する

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
エッセイ／体験記／ノンフィクション 純文学／娯楽小説（主に短編）	30	講 義 ディスカ ッション テーマ 作文	レポート

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

レクリエーション

講師名 横山 美由紀 岩原 良子 山口 朋恵

ねらい

1. 心身活動を通してリフレッシュし、心身のバランスを保つ
2. 表現能力、創造力を養う
3. 人と人との交わりの体験をする

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>1. フラダンス(横山)</p> <p>1) 練習曲：月の夜は</p> <p style="padding-left: 20px;">①姿勢とフラポジション②ステップ：カオ・カホロ</p> <p style="padding-left: 20px;">③ハンドモーション(月・波・木)</p> <p>2) 練習曲：月の夜は The hukilau song</p> <p style="padding-left: 20px;">①ステップ：カオ・カホロ・カホロラウンド^ト・ウエハ</p> <p style="padding-left: 20px;">②ハンドモーション(魚)</p> <p style="padding-left: 20px;">③歌の意味<The hukilau song></p> <p>3) 練習曲：月の夜は The hukilau song</p> <p style="padding-left: 20px;">①ステップ：カオ・カホロ・カホロラウンド^ト・ウエハ</p> <p style="padding-left: 20px;">②ハンドモーション(魚)</p> <p style="padding-left: 20px;">③歌の意味<The hukilau song></p> <p>4) 練習曲：月の夜は The hukilau song</p> <p style="padding-left: 20px;">Mauinuiakama</p> <p style="padding-left: 20px;">①ステップ：レウエハ・ハラ・アミ・カラカア・イマ^ア・後カホ</p> <p style="padding-left: 20px;">②ハンドモーション(雲・山・花)</p> <p style="padding-left: 20px;">③歌の意味<Mauinuiakama></p> <p>5) 練習曲：月の夜は The hukilau song</p> <p style="padding-left: 20px;">Mauinuiakama</p> <p style="padding-left: 20px;">①ステップ：ブラッシュウエハ・キハ^バウエハ</p> <p style="padding-left: 20px;">②ハンドモーション(雨・道・風)</p> <p style="padding-left: 20px;">③歌の意味<Mauinuiakama></p> <p>6) 練習曲：Mauinuiakama</p> <p style="padding-left: 20px;">①ステップ総復習(3曲分)</p> <p style="padding-left: 20px;">②ハンドモーション(Mauinuiakama)</p> <p>7) 総復習 練習曲：月の夜は The hukilau song</p> <p style="padding-left: 20px;">Mauinuiakama</p>	16	講 義 演 習	<p>筆記試験 実技試験</p> <p>授業・演習への参加態度</p>

内 容	時間数	授業形態	評 価
2. 創作活動（岩原） 1) 手遊び・折り紙・絵本読み聞かせ 2) 手遊び・折り紙・ミニ絵本作成・あやとり ・絵本読み聞かせ 3) あやとり・簡単なゲーム・メッセージカード作成 4) メッセージカード作成・授業感想提出・まとめ	8	講 義 演 習	作品作成 レポート 授業・演習への参加態度
3. 音楽活動（山口） 1) こんにゃく体操による柔軟・発声・歌 2) アンサンブルへ挑戦・読み聞かせ体験 3) 発表・まとめ	6	演 習	レポート 授業・演習への参加態度

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

文化人類学

講師名 野口 明広

ねらい

文化人類学では、世界中に暮らす様々な民族の文化を観察し、人間の社会関係の在り方を研究してきた。この授業では、文化人類学のそうした研究成果を概観し、医療の現場において患者と医療者はいかなる関係にあるべきかを考える。

1. 人間にとって文化の持つ意義を理解する
2. 医療活動も文化の一要素であることを理解する
3. 医療活動における人間関係の特徴を理解し、その問題点を理解する
4. 医療活動における人間関係がはらむ問題点を克服するための医療者のあるべき態度を理解する

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 文化人類学とはどのような学問か 2. 文化の視点から医療を考える 3. 仲間とよそ者① 互酬性と市場交換 4. 仲間とよそ者② 対内道徳と対外道徳 5. 医療者と患者との間にある人間関係の問題点 6. 医療職は専門職 (プロフェッショナル) である ; 専門職とは何か 7. 傷ついた医療者 (Wounded Healer) 8. 医療者と患者とのありうるべき関係を求めて ; 河野博臣医師の生涯	15	講 義	レポート

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

英 語

講師名 川村 ジェアネッテ

ねらい

1. 英会話の基礎能力を身につける
2. 医療・看護に関連する用語を英会話で学ぶことを通して、医療・看護に対する関心が深まる
3. 国際感覚を養う

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. あいさつ、自己紹介 2. 身体の部位に関する英単語・英会話 3. 病気の症状に関する英単語・英会話 4. 病院環境に関する英単語・英会話 5. 入院生活に関する英単語・英会話	30	講 義 ロールプレイ GW	筆記試験 (リスニング 問題を含む)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
ナースのためのイングリッシュスキル	Bonnie R.Clark	医学書院

英 会 話 I

講師名 榎本 卓史

ねらい

1. 臨床で活用される医療専門用語に英語で親しむことができる
2. 英会話文を読むことを通して、医療・看護の現状や国による違い、患者の思いなどに関心を深めることができる

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 患者の紹介、初診時の状況 2. 患者の家族・背景の説明 3. 患者の生活・病状の変化 4. 人生の展開、治療の経過	15	講 義 ロールプレイ GW	筆記試験 (リスニング問題 を含む日々 の小テスト)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
ナースのためのイングリッシュスキル	Bonnie R.Clark	医学書院

英 会 話 II

講師名 Peter Fjellstrom

ねらい

1. 英会話 I の内容を発展させ、医療現場で実践的に使える英語力を身につける
2. 授業では、医療の現場にて想定されるシチュエーションごとの会話の流れに沿った表現の学習を行うが、ただ単に会話表現を学ぶだけではなく、感情豊かに表現できるようトレーニングを行う

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 患者の紹介、初診時の状況 Unit1－Dialog and role play	15	role play	演習内容 performance (参加態度) 80%
2. 患者の家族・背景の説明 Unit2－Dialog and role play			
3. 患者の生活・病状の変化 Unit3－Dialog and role play			
4. 人生の展開、治療の経過 Unit4－Dialog and role play			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
ナースのためのイングリッシュスキル	Bonnie R.Clark	医学書院

体 育

講師名 渥美 良和

ねらい

健康的な学生生活および卒業後の社会生活を継続しておくための体力をつける。また、心身ともに健康に過ごすために必要な基礎的知識を学ぶ。更に、目的に合わせた様々な楽しみ方や関わり方があることを理解し、広い視野で運動・スポーツを捉えられるようになる。

目 標

1. 学生生活および卒業後の仕事において必要な体力を補う
2. 卒業後の仕事をするうえで、身体に負担のかからない知識・方法を身につける
3. スポーツを多角的に捉えた様々な楽しみ方や関わり方を理解する

1単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 身体健康と運動	10	講義 演習	参加態度
1) コンディショニング (1) 身体セルフチェックとケアの方法 (2) ストレッチ (3) ウォーキング・ジョギング (4) コアマッスルトレーニング			
2) スポーツの楽しみ方 (1) 観る・観戦する・支えるスポーツ (2) フットサル (3) ボッチャ	5		

専 門 基 礎 分 野

目 的

人間・医学・保健医療福祉にかかわる基礎的知識を学び、看護の対象である人間理解に役立てる。

21 単位 (510 時間)

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1 年次
	解剖生理学Ⅱ	1	30	
	解剖生理学Ⅲ	1	30	
	解剖生理学Ⅳ	1	30	
	生 化 学	1	30	
疾病の成り立ちと 回復の促進	微生物学	1	30	1 年次
	疾病論総論	1	30	
	疾病論Ⅰ	1	30	
	疾病論Ⅱ	1	30	
	疾病論Ⅲ	1	15	
	疾病論Ⅳ	1	30	
	治療論Ⅰ 薬理学	1	30	
	治療論Ⅱ 手術療法	1	30	
	治療論Ⅲ リハビリテーション	1	15	
	治療論Ⅳ 臨床栄養学	1	30	
健康支援と社会保障制度	保健医療論	2	30	1 年次
	社会福祉	2	30	2 年次
	関係法規	2	30	3 年次

解剖生理学

ねらい

1. 人体の発生、人体の構成要素の正常な構造と機能について系統的に学び、正常に機能している人体について学ぶ
2. 人間の生命について、生命の尊厳について理解を深める
 - 1) 人間の基本単位である細胞で営まれる生命現象に必要なエネルギーの生産、それに関わる物質の移動
 - 2) それに関与する組織・器官の構造と働きのしくみ
 - 3) 組織・器官が相互に協調して働くための調節のしくみ
 - 4) 内外の環境変化に対する適応(刺激と反応)に関わっている組織・器官の構造と働きのしくみ

4 単位 (120 時間)

授 業 科 目	単位数	項 目	時間数	進 度
解剖生理学 I 生命活動を支える 構造と機能	1	身体の構造 人体と構成 人体の発生 器官系統の役割と構造 人体の遺伝学的理解	30	1 年次
解剖生理学 II 生命活動を支える 生理的機能	1	消化と吸収のしくみ 呼吸のしくみ 循環のしくみ 生活行動からみるからだの理解	30	1 年次
解剖生理学 III 内部・外部環境を支える 構造と生理的機能	1	器官系統の役割と構造 内部・外部環境への調節のしくみ 体温のしくみ	30	1 年次
解剖生理学 IV 日常生活行動を支える 構造と生理的機能	1	器官系統の役割と構造 中枢神経のしくみ 筋のしくみ・神経のしくみ 感覚器のしくみ	30	1 年次

解剖生理学 I

生命活動を支える構造と機能

講師名 安積 順一

ねらい

1. 身体を構造として理解することができる
2. 人体の発生のメカニズムを理解することができる
3. 消化器・呼吸器・循環器系の構造と機能を理解することができる
4. 人体の遺伝および遺伝子とその異常について理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 身体の構造 1) 解剖学とは 2) 人体の構造と区分、解剖学用語	6	講 義	筆記試験
2. 人体と構成 1) 人体の構成 2) 細胞、組織、器官と器官系			
3. 人体の発生 生殖細胞、性染色体と性の決定 1) 原胚子の分割とその後の発生			
4. 器官系統の役割と構造 1) 消化器系 歯、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 2) 呼吸器系 鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、 縦隔と胸膜 3) 循環器系 血管系：心臓、血管、リンパ管、胸管、 脾臓	14		
5. 人体の遺伝学的理解 1) ヒトの生命現象の特性、遺伝子 DNA 2) ヒトの染色体、染色体異常症候群 3) 単因子遺伝、多因子遺伝	10		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
入門人体解剖学	藤 田 恒 夫	南江堂
系統看護学講座 専門基礎分野	坂 井 建 雄 他	医学書院
解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕		
遺伝医学への招待 (内容 5 で使用)	新川 詔夫 安部 京子	南江堂

解剖生理学Ⅱ

生命活動を支える生理的機能

講師名 鎌田 勉 木村 文枝

ねらい

1. 消化・呼吸・循環の生理的メカニズムを理解することができる
2. 生活行動の生理学的メカニズムを理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 消化と吸収のしくみ (鎌田) 1) 嚥下運動 2) 消化と吸収 口、胃、小腸、膵臓、肝臓、胆嚢、大腸 3) 消化管の運動	24	講 義	筆記試験 (80%) グループ発表・提出物 (20%) (提出物の 期限、演習時 の態度、グル ープワーク 時の積極性 など)
2. 呼吸のしくみ 1) 呼吸とは 2) 気道の機能 3) 呼吸運動、肺容量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 呼吸の調節 6) 呼吸困難			
3. 循環のしくみ 1) 循環とは 2) 心臓の機能 3) 心臓・血管の調節 4) 心音、心電図 5) 血圧、脈拍 6) 血液、リンパ、体液、電解質 7) 体液の循環と調節 8) 循環系			(担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
4. 生活行動からみるからだの理解 (木村) 1) 食べる 2) 息をする 3) トイレに行く	6	GW 発表	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
入門人体解剖学	藤 田 恒 夫	南江堂
系統看護学講座 専門基礎分野	坂 井 建 雄 他	医学書院
解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕		
看護形態機能学	菱 沼 典 子	日本看護協会出版会

解剖生理学Ⅲ

内部・外部環境を支える構造と生理的機能

講師名 鈴木 裕子 鎌田 勉

ねらい

泌尿器・内分泌器・生殖器・神経系の各器官の構造と機能、生理を理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 器官系統の役割と構造 (鈴木) 1) 泌尿器系：腎臓、尿管、膀胱、尿道 2) 内分泌器系：甲状腺、上皮小体、副腎、松果体 下垂体 3) 生殖器系：男性生殖器、女性生殖器	6	講 義	筆記試験
2. 内部・外部環境への調整のしくみ (鎌田) 1) 腎機能 ・腎臓の機能と尿の生成 ・尿の性状 2) 内分泌 ・内分泌性調節の特徴 ・内分泌腺とホルモン機能 3) 免疫 ・体液性免疫と細胞免疫 ・免疫に関与する細胞 ・抗体、補体 4) 自律神経 ・自律神経の分類と特徴 ・自律神経の作用	24		
3. 体温のしくみ 1) 体温とは 2) 体温の調節			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
入門人体解剖学 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕	藤 田 恒 夫 坂 井 建 雄 他	南江堂 医学書院

解剖生理学Ⅳ

日常生活行動を支える構造と生理的機能

講師名 藤戸 裕 貝嶋 光信

ねらい

1. 骨格・筋の構造と機能を理解することができる
2. 運動・知覚に関与する神経系の生理を理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 器官系統の役割と構造 (藤戸) 1) 骨格系：骨、骨格、骨の連結 2) 筋系：骨格筋、姿勢と筋肉 3) 神経系：中枢神経系、末梢神経系 4) 感覚器系：外皮、味覚器、嗅覚器、視覚器、 平衡・聴覚器	14	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 中枢神経のしくみ (貝嶋) 1) 中枢神経の機能 2) 大脳、間脳、脳幹、小脳 3) 末梢神経の機能 4) 脳神経、脊髄神経 5) ニューロン	6		
3. 筋のしくみ・神経のしくみ (藤戸) 1) 運動 2) 姿勢と運動の調節	4		
4. 感覚器のしくみ (藤戸) 1) 感覚とは 2) 外皮、知覚神経 3) 体性感覚、内臓感覚 4) 視覚、聴覚、味覚、嗅覚 5) 平衡感覚	6		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
入門人体解剖学 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕	藤 田 恒 夫 坂 井 建 雄 他	南江堂 医学書院

生 化 学

講師名 能野 秀典

ねらい

生化学は、生命体を構成する物質の化学的性質、生命体内での化学反応を扱う。即ち、人間の生命現象を科学的に学ぶ領域である。

1. タンパク質、糖質、脂質、体液等生体構成物質の化学的性質を理解する
2. 生体内での化学変化、即ち代謝について学び、生命維持に必要な恒常性について理解する
3. 生体内に生じる異常を科学的に理解し、異常をおこした人々への援助とその関連づけを学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 アミノ酸 ペプチド結合 2. タンパク質 定義 構造 変性 3. 糖 定義 種類 主な糖の化学構造 4. 糖代謝 エネルギー産生機構 5. 脂質 種類 化学構造 脂肪酸の化学 6. 脂質代謝 分解・合成 7. タンパク質代謝 アミノ酸代謝 8. 中間試験 核酸の化学 DNA の化学構造 9. タンパク質生合性 遺伝 遺伝的疾患 10. 酵素 定義 酵素の基質特異性 11. 生体内液の分布 生体内イオンの意義 12. 恒常性維持 1 ビタミン 13. 恒常性維持 2 ホルモン 14. 血液・尿 成分とその意義 15. 免疫 全体の総括	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
わかりやすい生化学	石黒 伊三雄	ニューヴェルヒロカワ

微生物学

講師名 横田 伸一

ねらい

1. 感染症の原因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について理解する
2. 宿主の生体防御機構(免疫)について理解する
3. 感染予防、感染対策について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 微生物と感染症 ・感染症の三要素、感染症の現状、感染症法 2. 病原微生物 1) 細菌 ・細菌の形態と生理、細菌による感染症 ・化学療法と抗菌薬 2) ウイルス ・ウイルスの構造と増殖 ・ウイルスによる感染症 3) 真菌 ・真菌とは ・真菌による感染症 3. 免疫 ・免疫とは ・細胞性免疫と液性免疫(抗体) ・過敏症(アレルギー) ・ワクチン 4. 感染予防と院内感染対策 ・スタンダードプリコーション ・滅菌と消毒	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
わかる！身につく！病原体・感染・免疫	藤本 秀士 編著	南山堂

疾 病 論

ねらい

疾病・症状と人間について理解し、健康状態のアセスメントができる基礎知識を習得する。

1. 疾病の原因・発生病理および症状の起こるメカニズムについて理解する
2. 器官系統別に疾病の発生機序・徴候・経過と臓器の構造・機能の変化を正常の解剖生理の知識をもとに学ぶ
3. 疾病の診断、治療、検査、予防について学び、健康のレベルに応じた援助をするための知識を学ぶ

5 単位 (120 時間)

授 業 科 目	単位数	項 目	時間数	進 度
1.疾病論総論	1		30	1 年次
2.疾病論 I 呼吸器・循環器・腎泌尿器系	1	呼吸器疾患 循環器疾患 腎・泌尿器疾患	30	1 年次
3.疾病論 II 消化器・免疫・内分泌・代謝系	1	消化器疾患 免疫疾患 内分泌・代謝疾患	30	1 年次
4.疾病論 III 脳神経・運動器系疾患	1	脳神経疾患 運動器疾患	15	1 年次
5.疾病論 IV 感覚器・耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患・血液・女性生殖器・口腔・歯科系	1	眼疾患 耳鼻咽喉疾患 皮膚疾患 女性生殖器疾患 血液疾患 歯・口腔疾患	30	1 年次

疾病論総論

講師名 鈴木 裕子 差波 やよい 菅野 朱美 池戸 文恵

ねらい

1. 疾病の原因・発生機序・病態について理解することができる
2. 看護場面で遭遇しやすい症状の起こるメカニズムを理解することができる
3. 主要な観察に基づいて、症状の正常・異常を判断することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病とは何か (鈴木) 2. 病因論 1) 疾病の原因 2) 疾病の発生 3. 細胞と変化 1) 細胞増殖と再生 4. 疾病の分類 1) 先天異常、奇形 2) 代謝異常 3) 進行性病変 4) 退行性病変 5) 循環障害 6) 炎症と感染症 7) 免疫反応と免疫異常 8) 腫瘍 5. 症状の起こるメカニズム 1) 脱水 (差波) 2) 浮腫 (差波) 3) 貧血 (菅野) 4) 呼吸困難 (菅野) 5) 頭痛 (池戸) 6) ショック (菅野) 7) 食欲不振 (池戸)	16	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
	14		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図	坂本 穆彦 編 阿部 俊子 他	医学書院 中央法規

疾病論 I

呼吸器・循環器・腎泌尿器系

講師名 富樫 誠也 稲垣 尚人

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>1. 呼吸器疾患 (富樫)</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状 上気道・気管支の疾患：かぜ症候群、気管支炎、 気管支喘息</p> <p>2) 肺の疾患 肺炎：細菌、マイコプラズマ、肺腫瘍、閉塞性肺疾患 肺結核、肺循環障害</p> <p>3) 胸膜の疾患：気胸</p> <p>4) 主な検査：呼吸機能検査、内視鏡検査、血液検査</p> <p>5) 主な治療：酸素療法、肺理学療法、手術療法 薬物療法、放射線療法</p>	10	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
<p>2. 循環器疾患</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状 2) 先天性心疾患</p> <p>3) 後天性心疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓弁膜症：僧帽弁狭窄症、閉鎖不全症、心不全 大動脈弁狭窄症 ・虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞 ・心筋疾患：心筋症、心筋炎 ・血圧異常：本態性高血圧、二次性高血圧、本態性 低血圧、不整脈 <p>4) 主な検査：心臓カテーテル、心臓血管造影</p> <p>5) 生理学的検査：心電図、心エコー</p> <p>6) 主な治療：薬物療法、食事療法、安静療法、PTCA 手術療法、リハビリテーション、ペースメーカー</p>	12		
<p>3. 腎・泌尿器疾患 (稲垣)</p> <p>1) 泌尿器科の基礎 (解剖・生理)、症候、検査</p> <p>2) 主たる疾患・病態の診断と治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿路・性器感染症 ・尿路結石 ・排尿の異常 ・腎不全と慢性腎臓病 ・尿路・性器腫瘍 (腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺癌、精巣腫瘍) 	8		

テキスト

書名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器	浅野 浩一郎 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器	阿部 光輝 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器	阿部 信一 他	医学書院

疾病論Ⅱ

消化器・免疫・内分泌・代謝系

講師名 森合 哲也

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>1. 消化器疾患</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食道疾患：食道癌 ・胃・十二指腸疾患：胃潰瘍、胃癌 ・肝臓・胆嚢疾患：肝炎、肝癌、肝硬変、胆石 ・腸疾患：大腸癌、潰瘍性大腸炎 ・脾臓疾患：脾炎 ・急性腹症 <p>2) 主な検査：内視鏡検査、超音波検査、X線検査、生検、血液検査</p> <p>3) 主な治療：薬物療法、食事療法、手術療法、化学療法</p>	16	講 義	筆記試験
<p>2. 免疫疾患</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己免疫疾患 ・膠原病：全身エリテマトーデス (SLE)、リウマチ、多発性動脈炎 ・アレルギー疾患 <p>2) 主な検査：血液検査、抗原・抗体検査</p> <p>3) 主な治療：薬物療法、脱感作療法</p>	6		
<p>3. 内分泌・代謝疾患</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病 ・甲状腺疾患：バセドウ病 ・副腎疾患：クッシング症候群 <p>2) 主な検査：血液検査、ホルモン定量</p> <p>3) 主な治療：薬物療法、食事療法、運動療法</p>	8		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症	原 まさ子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院

疾病論Ⅲ

脳神経・運動器系疾患

講師名 貝嶋 光信 佐藤 陽介

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 脳神経疾患 (貝嶋) 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 脳疾患：脳血管疾患－クモ膜下出血、脳梗塞、脳出血 脳動脈瘤 脳腫瘍 頭部外傷 パーキンソン氏病 脊髄疾患 てんかん 2) 主な検査：神経学的検査、CT、MRI、血管造影 3) 主な治療：手術療法、薬物療法、安静療法 リハビリテーション	10	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 運動器疾患 (佐藤) 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 骨折 関節の疾患：変形性膝関節症、股関節症、痛風 骨腫瘍 脊椎の疾患：椎間板ヘルニア 炎症性疾患：骨髄炎 2) 主な検査：X線検査、MRI、関節内視鏡 3) 主な治療：保存療法：ギプス、牽引、手術療法	5		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経	竹村 信彦 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器	織田 弘美 他	医学書院

疾病論Ⅳ

感覚器・耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患・血液・女性生殖器・口腔・歯科系

講師名 小川 佳一 秦 正人 嵯峨 賢次 金上 宣夫
 長町 康弘 倉橋 昌司

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 眼疾患 (小川) 1) 視覚器組織の構造と機能・生理 2) 視覚器の疾患と病態生理 ①水晶体の疾患：白内障 ②視神経障害：緑内障 ③網膜疾患：糖尿病網膜症・加齢性黄斑変性 ④眼表面の疾患：ドライアイ、結膜炎 3) 主な検査：視力検査・細隙灯検査・眼底検査 4) 主な治療：点眼、手術療法、レーザー	4	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 200 点満 点で評価)
2. 耳鼻咽喉疾患 (秦) 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・耳の疾患：外耳疾患、鼓膜損傷、中耳炎、メニエール病 ・鼻の疾患：外鼻疾患、副鼻腔炎 ・咽喉頭の疾患 ・腫瘍 2) 主な検査：聴力検査、内視鏡検査、X 線検査 3) 主な治療：薬液噴霧療法、手術療法、放射線療法	4		
3. 皮膚疾患 (嵯峨) 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・湿疹・皮膚炎：アトピー性皮膚炎、膠原病 ・物理的障害：熱傷 (火傷)、褥瘡 ・悪性腫瘍 ・皮膚感染症 2) 主な検査：アレルギー検査、免疫検査、生検 3) 主な治療：薬物療法、理学的療法、手術療法	4		
4. 女性生殖器疾患 (金上) 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・子宮の疾患：子宮筋腫、子宮癌 ・卵巣の疾患：卵巣嚢腫、卵巣癌 ・月経異常 ・更年期障害 ・不妊症と避妊 2) 主な検査：内視鏡検査、CT、造影法 3) 主な治療：洗浄、薬物療法、手術療法	6		

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>5. 血液疾患（長町）</p> <p>1) 主な疾患の病態生理と主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤血球の疾患：鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球生貧血、真性多血症 ・白血球の疾患：白血病、骨髄性異形成症候群 無顆粒球症 ・リンパ性疾患：悪性リンパ腫 ・出血性疾患：血小板減少性紫斑病、血友病、DIC ・血栓性疾患 ・異常タンパク血症：多発性骨髄腫 <p>2) 主な検査：骨髄穿刺、骨髄生検、血液検査、凝固時間</p> <p>3) 主な治療：化学療法、放射線療法、輸血療法、造血幹細胞移植療法</p>	8	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 200 点満 点で評価)
<p>6. 歯・口腔疾患（倉橋）</p> <p>1) 歯・口腔の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯、歯周組織、咀嚼筋、舌、顎関節、口腔粘膜、唾液腺 <p>2) 歯・口腔の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼(下顎運動)、口腔感覚(味覚)、唾液分泌、嚥下 <p>3) 歯・口腔の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う蝕、歯周病、顎関節症、歯痛、味覚障害、口腔乾燥症、口臭、嚥下障害、誤嚥性肺炎 	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼	大鹿 哲郎 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉頭	小松 浩子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚	岡山 裕子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器	飯野 京子 他	医学書院
系統看護学講座 専門 分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器	池田 正 他	医学書院
系統看護学講座 分野専門Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔	青木 春恵 他	医学書院

治療論 I 薬理学

講師名 西城 一翼

ねらい

薬理学は、薬物の生体に対する影響を生体側からみた薬物動態学(吸収、分布、代謝、排泄)と、薬物側からみた薬力学(作用)から成り立つことを理解し、薬物療法の基本的なことや薬の適正使用などについて学ぶ。

1. 種々の薬物名を学び、薬物が生体に及ぼす影響を理解する
2. 薬物の作用機序および副作用を理解し、対応する疾患との関連や看護上の注意点について学ぶ
3. 実際の薬物療法における看護のあり方の基本的概念について学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
I. 総論 1.薬の基本性質、使用目的、主作用・副作用、作用点 受容体、投与経路、影響する因子、相互作用 看護師の役割 2.薬の吸収・分布・代謝・排泄、血中濃度 医薬品の法令、処方箋、添付文書 普通薬、劇薬、麻薬、毒薬	30	講 義	筆記試験 小テスト 20 点 終講テスト 80 点
II. 各論 1.抗感染症薬 抗菌作用のしくみ、薬剤耐性 ペニシリン系抗生物質、セフェム系、アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、マクロライド系、ニューキノロン系、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、性感染症薬 2.抗がん薬 アルキル化薬、代謝拮抗薬、植物アルカロイド薬 性ホルモン拮抗薬 3.免疫治療薬 免疫抑制薬、免疫増強薬(ヒト免疫グロブリン、インターフェロン、インターロイキン2 など) 4.抗アレルギー薬 H ₁ 受容体拮抗薬、抗アレルギー薬 5.抗炎症薬 非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬 関節リウマチ薬、通風薬、高尿酸血症薬、偏頭痛薬			

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>6.末梢神経作用薬 交感神経作用薬 (アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬) 副交感神経作用薬 (コリン作用薬、抗コリン作用薬)</p> <p>7.中枢神経作用薬 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗神経薬 抗うつ薬など</p> <p>8.循環器系作用薬 高血圧薬、狭心症薬、抗不整脈薬、利尿薬、 抗脂質異常症薬</p> <p>9.呼吸器系作用薬 喘息薬(ステロイド薬、抗アレルギー薬) 鎮咳薬、去痰薬</p> <p>10.消化器系作用薬 H₁受容体拮抗薬、健胃薬、制吐薬、下剤、止痢薬 駆虫薬</p> <p>11.生殖器系作用薬 性ホルモン、子宮収縮薬、生活改善薬</p> <p>12.物質代謝の作用薬 糖尿病薬、抗甲状腺薬、ビタミン(脂溶性、水溶性)</p> <p>13.皮膚科治療薬、眼科治療薬など</p> <p>14.消毒薬、漢方薬、補液・輸液剤</p> <p>15.救急薬(薬物中毒)、国家試験問題、その他</p>		講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学	吉岡 充弘 他	医学書院

治療論Ⅱ 手術療法

講師名 森田 恒彦 中山 禎人 枝長 充隆 中山 雅康 木村 文枝

ねらい

疾病の回復を促進する治療の原理を理解する。

1. 手術療法と麻酔・手術による生体の反応について学ぶ
2. 手術療法を受ける患者についての理解を深める
3. 救急患者の特性の理解と対処の基礎知識について学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 手術療法とは (森田) 2. 手術侵襲と生体反応 (森田) 1) 手術による生体反応とは 2) 生体反応の発生機序 3) 生体反応の経過 4) 生体反応の管理 5) 輸液・輸血	8	講 義	筆記試験
3. 麻酔とは (中山) 4. 麻酔法 (枝長) 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔 3) 麻酔薬	8		
5. 麻酔と生体反応 (中山) 1) 麻酔による生体反応とは 2) 生体反応の発生機序 3) 生体反応の経過 4) 生体反応の管理			
6. ペイン・クリニック (中山) 7. 胃切除術について (森田) 1) 手術の方法 2) 再建術 3) 患者の管理：術前、術中、術後	8		
8. 救急救命の基礎 (木村) 9. 救急患者の特性 (木村)	4		
10. 重篤な病態と治療 (木村) 1) ショック 2) 呼吸不全 3) 循環不全			
11. 心肺蘇生法 (木村) 1) 1次救命 2) 2次救命	2	学内演習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統的看護学講座別巻 臨床外科看護総論	青木 照明 他編	医学書院

治療論Ⅲ リハビリテーション

講師名 鵜野 安希子

ねらい

1. リハビリテーションの概念とリハビリテーションの技術を学ぶ
2. 生活の再構築への援助の基本について学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. リハビリテーションの概念	15	講 義	筆記試験
2. リハビリテーションの場と方法		GW	GW 発表
1) 障害のレベルに応じた方法			
2) 医学的リハビリテーション			
3) 職業的リハビリテーション			
4) 教育的リハビリテーション			
5) 社会的リハビリテーション			
3. リハビリテーションの対象の理解			
1) 障害者の動向			
2) 障害のレベルとその概念			
3) 障害の受容			
4. 障害のアセスメントの基礎			
1) ボディメカニックスの原理			
2) 運動機能の評価			
5. リハビリテーションの実際			
1) 運動麻痺と機能訓練			
2) ADL に関するリハビリテーション			
3) 言語機能リハビリテーション			
4) 呼吸リハビリテーション			
6. リハビリテーションチーム			
1) チームワークの重要性			

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
成人看護学 D リハビリテーション患者の看護	氏家 幸子 他	廣川書店

治療論 IV 臨床栄養学

講師名 菅原 千鶴子

ねらい

食物の摂取は健康維持に第一義的な関わりを持っている。患者にとっての食物摂取は、健康回復のための治療の一方法である。

1. 食物に含まれる成分について学ぶ
2. 食物が体内に取り込まれた後の化学変化について学ぶ
3. 食事と健康、食事と疾病の関係について学ぶ
4. 疾病時の食事療法について学び体感する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人間栄養学と看護 2. 栄養状態の評価と判定 3. 栄養素の種類とはたらき 4. 栄養素の消化と吸収 5. ライフステージ別の栄養と食事 1) 妊娠期、授乳期、乳幼児期 2) 学童期、思春期 3) 成人期、高齢期 6. 食生活と疾病の変化 7. 栄養補給法とその選択 8. 病院給食の概要 9. 健康づくりと食品・食事・食生活	22	講 義	筆記試験 (80%) レポート (20%)
10. 調理実習① 鉄分、食物繊維をとるための献立	4	演 習	
11. 調理実習② カルシウムのとれる献立	4	演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能〔3〕栄養学	小野 章史 他	医学書院
系統看護学講座別巻 栄養食事療法	足立 香代子 他	医学書院
最新 食品標準成分表	細谷 憲政	全国調理師養成施設協会
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会	文光堂

保健医療論

講師名 塩野 寛

ねらい

人間の生命の尊厳を基盤とする保健・医療・福祉の概要について学ぶ。

1. 生命とは何かについて学ぶ
2. 医療の体系と機能について学ぶ
3. 健康の概念と疾病の概念、治療の考え方を含む医療観について学ぶ
4. 人間の健康と幸福な生活を守るための社会システムと医療の役割について学ぶ

2 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療とは何か：医学と医療 2. 人間の生命について：人間とは、生命とは 3. 医療とは何か 1) 医学と医療 2) 医療のシステムと機能 3) プライマリーヘルスケア 4) 保健・医療・福祉の統合 5) 保健・医療・福祉システム 6) 医療のあり方と医療者の役割 4. 医療と倫理 1) 医療における倫理、生命倫理 2) 脳死と臓器移植、体外受精 3) 遺伝子治療 5. 健康と疾病：健康の概念、疾病の概念、疾病の構造 6. 少産高齢社会 1) 人口構造 2) 少産高齢社会における医療の役割 7. 人間と死 1) 死とは何か 2) 生命維持、安楽死 3) 死を共有する医療 4) 脳死と臓器移植 8. 病状(真実)の告知：癌の告知、死の告知 9. 医療における患者の権利 1) インフォームドコンセント 2) 生命の質(QOL) 10. 21 世紀の医療：21 世紀の医療と医療者の役割	30	講 義 GW	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
新体系看護学全書 6 現代医療論 生命倫理への招待 改訂 5 版	小坂 樹徳 塩野 寛 他	メヂカルフレンド社 南山堂

社会福祉

講師名 五十嵐 教行

ねらい

1. わが国の社会福祉・社会保障の内容について体系的に学び、各種法律について分析しながら「福祉国家」、「人間らしい生活」のあるべき姿について論考する
2. 社会福祉・社会保障の動向と医療の関連性について学ぶ

2 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 現代社会の変化と社会福祉・社会保障の動向 2. 医療保障① ～医療保障制度の構造 3. 医療保障② ～健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度 4. 医療保障③ ～保険診療のしくみと国民医療費の動向 5. 介護保障① ～介護保険制度の歴史 6. 介護保障② ～介護保険制度の概要 7. 所得保障① ～年金保険制度の概要 8. 所得保障② ～労働保険制度他の制度の概要 9. 公的扶助① ～貧困・低所得者層における生活問題 10. 公的扶助② ～生活保護制度のしくみ 11. 公的扶助③ ～低所得層対策と近年の動向 12. 社会福祉の歴史 13. 高齢者福祉と障害者福祉 14. 児童家庭福祉 15. 社会福祉実践と医療・看護の連携	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会福祉	福田 素生 他	医学書院

関係法規

講師名 角田 富美子 平岡 康子 萩野 貴志

ねらい

法の基礎知識と保健・医療・看護における法規について学び、医療者としての業務と責任を自覚する。

2 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. はじめに 1) 私たちの生活と法律 2) 看護と法律 3) 改めて法とは	2	講 義	筆記試験
2. 健康支援と法律 1) 健康支援に関する法規 2) 時代の変遷と法律 3) 健康支援のための法律とその分類	2		
3. 医療の提供に関する法律 1) 医療施設に関連する法律 (1)医療法	2		
2) 医療職種に関連する法律 (1)医師法 (2)薬剤師法 ほか	2		
3) 看護職に関連する法律 (1)保健師助産師看護師法 (2)看護師の人材確保の促進に関する法律	10		
4) 医療を支えるその他の法律 (平岡・萩野) (1)保健衛生法 (2)環境衛生法 (3)医療現場と感染管理	6		
4. 看護職と関係法規	2		
5. その他の法律	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度 [4]	森山 幹夫	医学書院

専 門 分 野 I

目 的

看護師としての専門的な知識・技術・態度について学ぶ。

14 単位（435 時間）

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
基礎看護学	看護学概論Ⅰ 看護の基礎	1	30	1年次
	看護学概論Ⅱ 看護の変遷と看護倫理	1	15	2年次
	方法論Ⅰ 対人関係の基礎	1	30	1年次
	方法論Ⅱ 看護援助の基礎	1	30	1年次
	方法論Ⅲ 対象把握の技術	1	30	1年次
	方法論Ⅳ 療養生活を整える援助技術	2	60	1年次
	方法論Ⅴ 診療補助技術	1	30	2年次
	方法論Ⅵ 医療におけるコミュニケーション技術	1	15	2年次
	方法論Ⅶ 看護過程	1	30	2年次
	方法論Ⅷ 臨床看護技術	1	30	3年次
・臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ－1	1	45	1年次
	基礎看護学実習Ⅰ－2			
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	2年次

基礎看護学

基礎看護学は、看護学を学ぶ上での導入部である。

この基礎看護学を土台として、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護論、精神看護学が展開されていく。従ってこの科目を通じて現代の保健医療体系の中に占める看護の位置と概念を学び、看護の基礎的な方法や技術を実践できる能力を養う。

目的

看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎能力を養う。

目標

1. 看護の概念を理解する
2. 看護の役割を理解する
3. 専門職業人としての態度を身につけ、倫理にもとづいた行動ができる能力を習得する
4. 安全でかつ、安楽な援助技術を習得する
5. 患者－看護師関係において自己理解、他者理解をふまえて行動できる
6. 人間の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎能力を習得する

11 単位 (300 時間) 実習 3 単位(135 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
看護学概論 I 看護の基礎	1.看護学の成り立ちと定義 2.看護の対象としての人間 3.代表的な看護理論 4.総合保健医療の中での看護の役割	1 (30)	14 10 4 2	1 年次
看護学概論 II 看護の変遷と看護倫理	1.看護の変遷 2.看護倫理 3.看護の専門性 4.看護職の養成 5.看護職の法的責任	1 (15)	5 2 6 2	2 年次
方法論 I 対人関係の基礎	1.人間関係の基礎 2.集団の理解 3.人間関係の基礎の築き方 4.人間関係を円滑にする方法	1 (30)	14 16	1 年次
方法論 II 看護援助の基礎	1.看護技術の概念 2.看護技術と安全・安楽 3.感染予防 4.環境調整	1 (30)	4 4 10 12	1 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
方法論Ⅲ 対象把握の技術	1.フィジカルアセスメント 2.メンタルアセスメント 3.社会的状況に関するアセスメント 4.観察・記録・報告	1 (30)	24 6	1年次
方法論Ⅳ 療養生活を整える 援助技術	1.栄養と食事 2.排泄 3.活動と休息 4.清潔・衣生活	2 (60)	12 12 12 24	1年次
方法論Ⅴ 診療補助技術	1.診療に伴う援助技術 2.与薬の援助 3.検査に伴う援助技術	1 (30)	8 14 8	2年次
方法論Ⅵ 医療におけるコミュニケーション 技術	1.医療におけるコミュニケーションの基本 2.コミュニケーションを妨げる要因 3.意思決定の援助方法 4.教育指導技術	1 (15)	5 10	2年次
方法論Ⅶ 看護過程	1.看護過程とは 2.看護過程の構成要素 3.ハンダーツンの看護論を用いての看護過程の展開	1 (30)	30	2年次
方法論Ⅷ 臨床看護技術	1.設定事例に応じた基礎看護技術 の実践	1 (30)	30	1年次
基礎看護学実習Ⅰ-1		1(45)	45	1年次
基礎看護学実習Ⅰ-2				
基礎看護学実習Ⅱ		2(90)	90	2年次

看護学概論 I 看護の基礎

講師名 高橋 久美子

目 標

1. 看護の概念を学び、看護の本質・機能を理解する
2. 看護の対象である人間を統合的に理解する
3. 健康の概念、健康の要因、国民の健康状態を理解し看護職の役割を理解する
4. 保健医療福祉システムの中で看護の果たすべき役割や看護活動を理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護学の成り立ちと定義 1) 看護とは何か (1)看護の原点 (2)ナイチンゲールの残したもの (3)看護の定義の変遷 (4)ヘンダーソンの考え方 2) 看護学とは何か (1)看護学とは実践の科学である (2)看護学を構成する主要概念 (3)看護を理解するために用いられる諸理論	14	講 義 GW	筆記試験 レポート
2.看護の対象としての人間 1) 人間とは何か (1)人間と動物の違い (2)生きるということ (3)人間の成長発達 2) 健康の捉え方と国民の健康 (1)健康・障害とは (2)国民の健康状態 3) 看護の対象としての家族 4) 看護の対象としての社会	10		
3.代表的な看護理論 1) 看護理論とは 2) 主な理論家の看護概念	4		
4.総合保健医療の中での看護の役割 1) 日本の医療システム 2) 看護の役割と責任	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
看護覚書	ナイチンゲール	現代社
看護の基本となるもの	V・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
看護者の基本的責務	日本看護協会監修	日本看護協会出版会

看護学概論Ⅱ 看護の変遷と看護倫理

講師名 高橋 久美子

目 標

1. 社会の変遷と看護の発展を学び、現代の看護を理解し、未来に求められる看護のあり方を理解する
2. 生命の尊厳を基盤に看護倫理、職業倫理を学び、看護者として責任ある行動を理解する
3. 自己の看護観を確立していくための基礎知識・姿勢について理解する
4. 専門職業人としての活動とその未来について理解する

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護の変遷 1) 宗教と看護 2) 戦争と看護 3) 宗教改革と産業革命 4) ナイチンゲールの功績と近代看護 5) アメリカにおける看護の発展 6) わが国における看護のあゆみ 7) 社会の変化と看護教育の発展	5	講 義	筆記試験
2.看護倫理 1) 人間の尊厳とは何か 2) 現代の医療の倫理 3) 人間の尊厳を守る看護ケア 看護倫理 4) 看護専門職と倫理 5) 看護場面で遭遇する倫理的問題	2		
3.看護の専門性 1) 専門職とは 2) 職能団体の果たすべき役割	6	GW	
4.看護職の養成 5.看護職の法的責任	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
看護者の基本的責務	日本看護協会監修	日本看護協会出版会

基礎看護学方法論 I 対人関係の基礎

講師名 角田 富美子

目 標

1. コミュニケーションの基本を理解できる
2. 集団でのコミュニケーション、討議の基本姿勢について理解できる
3. 自己や他者を理解し、人間関係の築き方が分かる
4. 人間（対人）関係を円滑にするコミュニケーション技法を身につけることができる

1 単位(30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. はじめに 1) 人間(対人)関係はどのように築かれていくのか 2) 看護者がコミュニケーションの基本的知識と技法を学ぶ意味	4	講 義 演 習	筆記試験 レポート 学習態度 (GW の参 加や演習 時の態度)
2. コミュニケーションの基本的な知識	8		
3. コミュニケーション技法 1) 「きく」・「はなす」 2) 「質問する」・「たずねる」 3) 「伝える」			
4. 集団でのコミュニケーション 1) 集団とは 2) 集団の力を発揮させるためには		4	
5. 看護理論とコミュニケーション 1) ケアリングとは 2) 人間関係に注目した理論家	2		
6. コミュニケーションプロセスに影響を与える要因	4		
7. 看護者のコミュニケーション技術を向上させるために ・ロールプレイ ・プロセスレコード	6		
8. こんなときどうする	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書基礎看護学 2 基礎看護技術 I	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社

基礎看護学方法論Ⅱ 看護援助の基礎

講師名 本多 いづみ 五十嵐 幸一

目 標

1. 看護における技術の考え方を理解する
2. 安全・安楽が看護技術の大前提となることが理解できる
3. 感染及び院内感染発生の要因を理解し、その防御のための知識を習得する事ができる
4. 感染防御のための援助を実践することができる
5. 体温・呼吸のメカニズムと逸脱時の看護援助を実践できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護技術の概念 (本多) 1) 技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護の専門性と看護技術 4) 看護の科学性を支える看護過程 5) 看護技術の質 6) 看護技術における倫理	4	講 義 実技演習	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2.看護技術と安全・安楽 (五十嵐) 1) 安全管理の技術 2) 安楽の意義 3) 安楽確保の看護技術	4		
3.感染予防 (五十嵐) 1) 感染防御実施の過程 2) 感染防御に必要な基礎知識 3) 滅菌と消毒 4) 感染予防に関するアセスメント 5) 感染防御のための援助方法	10		
4. 環境調整 (本多) 1) 環境調整とは 2) 健康生活と環境 3) 病者の生活環境とその整備 4) 環境整備の基本的援助 (1)環境整備、ベッドメイキング、寝具交換 (2)感染予防の方法：物理的方法 化学的方法	12		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
新体系看護学全書基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
写真でわかる 実習で使える看護技術	吉田 みつ子 他	インターメディカ
演習・実習に役立つ基礎看護技術	三上 れつ 他	ヌーヴェルヒロカワ

基礎看護学方法論Ⅲ 対象把握の技術

講師名 本多 いづみ 阿部 さつき

目 標

1. 看護における観察の意義と方法を理解する
2. 看護における健康状態を評価する意味を理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.フィジカルアセスメント (本多) 1)フィジカルアセスメントの目的 2)バイタルサインのアセスメント (1)バイタルサインのメカニズム (2)温罨法・冷罨法 3)心・血管系のアセスメント 4)肺・胸郭系のアセスメント 5)腹部・消化器系のアセスメント 6)筋・骨格系のアセスメント 7)頭頸部のアセスメント 8)外皮・リンパ系のアセスメント 9)神経系のアセスメント 10)泌尿器・生殖器系のアセスメント 2.メンタルアセスメント 3.社会的状況に関するアセスメント 4.観察、記録、報告 (阿部) 1) 観察 (1)観察とは (2)看護における観察 (3)観察の視点と内容 (4)看護観察における思考の過程 2) 記録、報告 (1)記録の目的 (2)看護記録の構成要素 (3)経過記録の種類 (4)記録に当たっての原則と注意事項 (5)看護記録および診療情報の取り扱い	24	講 義 実技演習 GW	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
	6		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書基礎看護学 2 基礎看護技術 I フィジカルアセスメント完全ガイド 演習・実習に役立つ基礎看護技術	深井喜代子 編 藤崎 郁 三上 れつ 他	メヂカルフレンド社 学習研究社 ヌーヴェルヒロカワ

基礎看護学方法論Ⅳ 療養生活を整える援助技術

講師名 五十嵐 幸一 阿部 さつき 差波 やよい 池戸 文恵

目 標

1. 対象の健康時の状態に近づけるための日常生活援助の必要性を理解する
2. 対象にとって安全かつ安楽な援助技術を実践する必要性を理解する
3. 科学的根拠にもとづいて看護が実践できる基礎的能力を習得する

2 単位 (60 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 栄養と食事 (差波) 1) 食事の意義と重要性 2) 消化と吸収 3) 適切な食事とは (1)年齢・労働条件などに応じた栄養素と熱量 (2)食習慣や嗜好 4) 病院の食事 (1)病人食の種類 (2)特殊栄養法 (経管栄養法、経静脈栄養法) 5) 食事の観察 6) 食事の援助	12	講 義 実技演習	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2. 排泄 (池戸) 1) 排泄の意義と重要性 2) 排尿と排便 3) 排泄の観察 4) 排泄援助の実際 5) 排泄援助の実際 (1)便器・尿器による援助 (2)浣腸 (3)導尿	12		
3. 活動と休息 (差波) 1) 活動と休息の意義 2) 健康生活と活動 3) 健康生活と睡眠 4) 体位変換の援助	12		
4. 清潔・衣生活 (五十嵐・阿部) 1) 健康生活における清潔の意義 2) 健康障害時の清潔 3) 清潔の援助に必要な基礎知識 4) 清潔援助の実際 (1)口腔ケア (2)全身清拭 (3)結髪・洗髪 (4)入浴の介助 (5)部分浴ー足浴・手浴・陰部洗浄ー (6)洗面の介助 (7)爪・ひげの手入れ 5) 衣生活 (1)着脱の基本的援助 (2)和式寝間着の交換	24		

テキスト

書名	編・著者名	発行所
新体系看護学全書基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
新体系看護学全書基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
写真でわかる 実習で使える看護技術	吉田 みつ子 他	インターメディカ
演習・実習に役立つ基礎看護技術	三上 れつ 他	ヌーヴェルヒロカワ

基礎看護学方法論V 診療補助技術

講師名 千田 朋江 五十嵐 幸一

目 標

1. 診療・検査に伴う看護師の責任を理解する
2. 診療・検査に伴う看護師の役割を理解する
3. 安全に診療補助技術を実践できるための基礎的知識及び技術が習得できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.診療に伴う援助技術 (千田) 1) 診療補助業務と看護師の法的責任 2) 診療時の看護師の役割 3) 診療補助に伴う援助技術 (1)中心静脈注射 カテーテルの消毒 ・消毒薬の特徴 (2)包帯法 (3)止血法	8	講 義 実技演習	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2.与薬の援助 (五十嵐) 1) 与薬に際しての看護師の責任 2) 与薬上の原則と注意事項 3) 与薬の方法 (1)経口与薬の援助と方法 (2)経皮・外用薬投与の援助と方法 (3)直腸内与薬の援助と方法 (4)注射の援助と方法 ・皮内・皮下注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 ・経静脈栄養法 (IVH) ・直腸内与薬 (5)輸血の援助と方法 (6)酸素療法、吸入、吸引 4) 麻薬・インシュリン・抗生物質投与時の観察点	14		
3.検査に伴う援助技術 (千田) 1) 検査の意義と看護師の役割 2) 検査を受ける患者への援助 3) 検査の種類 (1)検体検査 (2)体液の検査 (採血実習) (3)穿刺液の検査 (4)生体検査 (5)内視鏡検査 (6)超音波検査 (7)心電図検査 (8)皮膚反応検査	8		

テキスト

書名	編・著者名	発行所
新体系看護学全書基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 演習・実習に役立つ基礎看護技術 写真でわかる実習で使える看護技術	深井 喜代子 編 三上 れつ 他 吉田みつ子 編著	メヂカルフレンド社 ニューヴェルヒロカワ インターメディカ

基礎看護学方法論VI 医療におけるコミュニケーション技術

講師名 角田 富美子 平山 利恵

目 標

1. 対人関係の基礎で学習したコミュニケーションの知識を、具体的な看護場面において再考できる
2. ケアリングは、効果的なコミュニケーションによる対人関係を通して実践することを理解できる
3. 医療および看護の場面におけるコミュニケーションの実際について体験できる
4. 健康教育・指導の過程を理解し、計画の立案、指導の実施・評価ができる

1 単位(15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 看護活動とコミュニケーション (角田) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護者にとってのコミュニケーション 2) コミュニケーションセンスとは 2. 医療におけるコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療現場でのコミュニケーション 2) 医療におけるコミュニケーションの役割 3) 患者・家族とのコミュニケーション 4) 職種間とのコミュニケーション 3. 看護場面から探るコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報のとりかた、伝え方 2) 安全・安楽な看護実践の場面から 3) 患者の不安を読み取り、受け止める場面から 4. 医療・看護場面におけるコミュニケーションの実際 「どこが問題ですか? あなたならどう対応しますか」 ～コミュニケーション行動のシミュレーション～	6	講 義 演 習	筆記試験 学習態度 (GW) の参 加や演習 時の態度)
5. 教育指導技術 (平山) <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団指導 2) 個別指導 3) 指導プロセスの要点 4) 指導計画の立案・実施・評価 	9	講 義 ロールプレイ	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術 I コミュニケーションスキルアップ検定	深井 喜代子 編 近藤 有里 他編	メヂカルフレンド社 (株)慈慶教育事業部

基礎看護学方法論Ⅶ 看護過程

講師名 本多 いづみ 阿部 さつき 五十嵐 幸一

目 標

個別的な看護を実践するための、科学的思考プロセスを理解する。

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護過程とは 2.看護過程の構成要素 1) アセスメント (1)情報の収集 (2)情報の整理 (3)情報の分析・解釈 (4)看護問題の明確化 2) 計画 (1)看護目標 (2)期待される結果 (3)具体策 3) 実施 4) 評価 5) 看護計画の修正 3.ヘンダーソンの看護論を用いての看護過程の展開	30	講 義 事例に基 づいてグ ループワ ーク	看護過程を 展開した 提出物 学習態度 (提出物の 期限、グルー プワーク時 の積極性な ど)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書基礎看護学2 基礎看護技術 I 看護の基本となるもの	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	V・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
エビデンスに基づく 症状別看護ケア関連図	秋葉 公子 他	ヌーヴェルヒロカワ
エビデンスに基づく 疾患別看護ケア関連図	小坂橋 喜久代 他	中央法規
	阿部 俊子	中央法規

基礎看護学方法論Ⅷ 臨床看護技術

講師名 本多 いづみ 阿部 さつき 五十嵐 幸一 他

目的

臨床実習を開始するにあたり、安全・安楽な基礎看護技術を提供できるように技術の評価を行なう。

目標

1. 対象の状態に合わせた安全・安楽な援助が実践できる
2. 科学的根拠に基づき援助ができる
3. 対象に合わせた援助の工夫ができる
4. 自己の実践能力を振り返ることができる

1 単位 30 時間

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 設定事例に応じた基礎看護技術の実践 1)オリエンテーション 2)グループワーク (提示された事例の検討) 3)デモンストレーション 4)技術演習 (課題技術) 洗髪、足浴、清拭、リネン・寝衣交換、 バイタルサインの測定、環境整備などの 対象把握の技術や療養生活を整える技術について	30	講 義 GW 演 習	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書 基礎看護学 2 基礎看護技術 I	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 基礎看護学 3 基礎看護技術 II	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
フィジカルアセスメント完全ガイド	藤崎 郁	学研
演習・実習に役立つ基礎看護技術	三上 れつ 他	ヌーヴェルヒロカワ
写真でわかる 実習で使える看護技術	吉田 みつ子 他	インターメディカ
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉 公子 他	ヌーヴェルヒロカワ

基礎看護学実習

目 的

看護の対象となる人間を統合的に理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。

目 標

1. 基本的欲求をもち、生活する人間を理解できる
2. 健康レベルに応じた、看護の必要性が理解できる
3. 基本的看護技術に基づいた日常生活の援助が実践できる

3 単位 (135 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
基礎看護学実習 I - 1 (見学実習 : 15 時間)	1 (45)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院見学を通して病院・患者および看護をイメージ化できる ・今後の看護を学ぶ動機づけとなる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の概要を知る 2. 患者の療養環境および療養生活について知ることができる 3. 行われている看護の実際を知ることができる
基礎看護学実習 I - 2 (30 時間)		<ul style="list-style-type: none"> ・患者の生活状況と療養生活の実際を知り、患者に合わせた援助が実践できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の入院前と入院中の生活状況を理解できる 2. 患者が充足できていない日常生活の援助援助が実践できる 3. 患者に対して関心を持ち、思いやりのある行動が取れる
基礎看護学実習 II	2 (90)	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を統合的に理解し、患者が必要とする日常生活の援助を実践する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的ニーズをもち、生活する人間を理解できる 2. 日常生活行動に関する看護上の問題を見だし、優先度を判断できる 3. 看護問題の解決に向け、安全安楽自立に配慮した看護援助を実践できる 4. 看護チームの一員であることを自覚した行動がとれる 5. 行った看護を振り返り、自己の学びを深めることができる

専 門 分 野 Ⅱ

目 的

看護師としての専門的な知識・技術・態度について学ぶ。

38 単位 (1305 時間)

教 育 内 容	授 業 科 目	単 位 数	時 間 数	実 施 年 次
成人看護学 ・臨地実習	成人看護学概論	1	30	1 年次
	方法論Ⅰ 急性期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ リハビリ期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅳ 終末期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅴ 成人看護過程	1	30	2 年次
	成人看護学実習Ⅰ 急性・回復期	2	90	2 年次
	成人看護学実習Ⅱ 慢性・回復期	2	90	2 年次
	成人看護学実習Ⅲ 終末期	2	90	3 年次
老年看護学 ・臨地実習	老年看護学概論	1	30	1 年次
	方法論Ⅰ 老年者の健康を支える看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ 老年者の健康課題と看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 老年看護過程	1	15	3 年次
	老年看護学実習Ⅰ 老年期にある対象者の看護	2	90	2 年次
	老年看護学実習Ⅱ 健康課題をもつ老年者の看護	2	90	3 年次
小児看護学 ・臨地実習	小児看護学概論	1	30	2 年次
	方法論Ⅰ 小児期に多い疾患の理解	1	15	2 年次
	方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 小児看護学演習	1	30	2 年次
	小児看護学実習 1 健康な小児の看護 2 健康問題をもつ小児の看護 3 障害をもちながら生活している小児の看護	2	90	3 年次
母性看護学 ・臨地実習	母性看護学概論	1	30	2 年次
	方法論Ⅰ 周産期における女性の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ 周産期における異常と看護・母性看護の展開方法	1	15	2 年次
	方法論Ⅲ 母性における看護技術	1	15	2 年次
	母性看護学実習	2	90	3 年次
精神看護学 ・臨地実習	精神看護学概論	1	30	1 年次
	方法論Ⅰ 精神疾患の理解	1	15	1 年次
	方法論Ⅱ 精神を障害された人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 看護過程	1	30	2 年次
	精神看護学実習	2	90	3 年次

成人看護学

成人期は、人生の中で最も長期であり、身体的・精神的・社会的発達成長の変化が著しく、健康課題は生活に大きく影響する。成人期にある人は、社会的・経済的に中心的な存在であり、職業生活・家庭生活での人間関係においても多様な役割を担っている。そのため、成人期にある人の健康状態が家族や周囲の人に及ぼす影響は大きい。また、成人期にある人は自立・自律した存在であり健康の保持・増進のために自ら努力する能力を持っている。

成人看護学とは、成人期にある人々を対象とした看護学である。成人看護において看護者は、健康課題の解決を助ける教育的・相談的役割や発達課題達成への援助、健康管理のためのセルフケア能力の助長といった役割をもつ。

成人看護学では、成人を対象とした看護の基盤となる考え方や理論、援助方法を学習する。成人看護学を学ぶにあたっては、疾病の影響を生活反応で捉え身体機能を軸に社会復帰・自立・自律に向けた適応過程を学習して行く必要がある。よって、成人の健康課題はいかに身体機能の低下を予防し、健康の保持・維持、疾病の予防をすることが重要となる。

目 的

成人期にある人の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防の重要性を理解し、健康レベルに応じた課題について考え、看護を実践できる基礎を学ぶ

目 標

1. 成人期にある人を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する
2. 成人期にある人の生活過程と健康課題について理解する
3. 成人期の疾病の動向を学び、健康に影響を及ぼす諸因子を明確にし、疾病の予防と健康教育の方法が理解できる
4. 成人期にある患者と家族に対して、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的知識と技術を習得する
5. 保健医療福祉チームの一員として他職種との連携・協働の必要性と看護の役割が理解できる

6 単位 (180 時間) 実習 6 単位(270 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
成人看護学概論	1.成人看護学の概念と構成 2.成人期にある人々の理解 3.成人保健の動向 4.保健・医療・福祉における動向と課題 5.成人看護における倫理と看護者の役割 6.成人の生活と健康問題 7.成人看護に利用される理論・モデル	1 (30)	30	1 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
方法論Ⅰ 急性期にある人の看護	1.手術前の看護 2.手術中の看護 3.手術後の看護 4.胃切除術を受ける患者の看護 5.循環器に障害がある患者の特徴と問題 6.援助の方法 7.急性期の看護の実際	1 (30)	20 10	2年次
方法論Ⅱ リハビリ期にある人の看護	1.運動器に障害のある患者の特徴と問題 2.援助の方法 3.脳・脊髄神経に障害のある患者の特徴と問題 4.援助の方法	1 (30)	16 14	2年次
方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護	1.糖代謝に障害のある人の特徴 2.看護上の課題と観察のポイント 3.援助の方法 4.肝機能障害を持つ人の特徴 5.看護上の課題と観察のポイント 6.援助の方法	1 (30)	14 16	2年次
方法論Ⅳ 終末期にある人の看護	1.緩和ケアの歴史と現状 2.チーム医療 3.緩和ケアにおける倫理的課題 4.緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援 5.緩和ケアの対象者の広がり 6.緩和ケアにおける看護介入 7.身体的ケア 8.精神的ケア 9.社会的ケア 10.スピリチュアルケア 11.家族ケア 12.緩和ケアにおける看護教育 13.事例に応じた看護過程の展開	1 (30)	20 10	2年次
方法論Ⅴ 成人看護過程	1.慢性期看護過程 2.周手術期看護過程	1 (30)	16 14	2年次
臨地実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ	1.急性・回復期 2.慢性・回復期 3.終末期	6 (270)	90 90 90	2年次 2年次 3年次

成人看護学概論

講師名 吉川 美喜 木村 文枝

概 要

成人期にある人と家族および成人期に特徴的な健康課題をライフサイクルの課題・保健の動向・医療活動から理解し、看護の役割と援助の特徴を学ぶ。この学習は、成人看護学方法論の基礎となる。

目 的

成人看護の対象と対象の健康に関する現状を学び、看護の役割を理解する

目 標

1. 成人看護の対象とその特徴が理解できる
2. ライフサイクルから見た成人各期の特徴と発達課題が理解できる
3. 成人の健康と生活諸要因に関連する健康問題について理解できる
4. 成人保健の動向について理解できる
5. 成人を対象にする医療活動について理解できる
6. 成人看護学に必要な基礎理論を活用し、看護師の援助役割と患者・家族への教育と支援の必要性が考えられる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 成人看護学の概念と構成 (吉川) 2. 成人期にある人々の理解 (吉川) 1) 成人期における身体的発達、心理・社会的発達 2) 成人各期にある人々を取り巻く環境と健康課題 3) 成人各期にある人々の生活習慣と健康課題 3. 成人保健の動向 (吉川) 1) 人口静態 (総人口・労働力人口・世帯数)、人口動態、死亡の動向 2) 主要な死因・疾病の動向・生活習慣病への罹患から見た成人保健の動向 3) 健康日本 21、健康増進法、労働基準法、労働安全衛生法 4. 保健・医療・福祉における動向と課題 (吉川) 1) 成人期における健康障害の特徴 2) 一次、二次、三次予防の現状と対応	12	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
5. 成人看護における倫理と看護者の役割（吉川） 1) 看護における倫理と今日的課題 2) 看護者の倫理上の意思決定の基準 3) 倫理的問題の解決過程 6. 成人の生活と健康問題（吉川） 1) ライフイベントと健康問題 2) 生活習慣に関連する健康問題 3) 職業やストレスに関連する健康問題 4) セクシャリティに関連する健康問題 7. 成人看護に利用される理論・モデル（木村） エンパワメント、ストレスコーピング、危機理論、 セルフケア、病みの奇跡	4	講 義	筆記試験
	14	講 義 演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統別看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院

成人看護学方法論 I 急性期にある人の看護

講師名 小中 祐子 工藤 幸生

概 要

成人期にあり、周手術期あるいは急性状況にある人と家族の危機的状況を理解し、手術侵襲や危機状態からの回復のために必要な看護を学ぶ。この單元では、周手術期・急性状況に特徴的な看護を学習し、事例を用いて具体的な看護を考えることで学びを深める。

設定された事例の手術や疾病による身体の形態機能の変化および心理・社会状況を、専門基礎分野で学習した知識を想起し、援助の根拠を明確にする努力を期待する。

目 的

疾病や治療で急激な身体変化がおり、身体機能の維持、生活の維持ができない患者の看護について学ぶ

1. 手術を受ける人の看護

目 標

1. 周手術期にある人の特徴と看護上の問題について理解できる
2. 周手術期にある人の援助方法を理解できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
急性期とは 周手術期の患者の看護 (工藤) 1. 手術前の看護 1) インフォームドコンセント 2) 心理面を整える ・手術を受ける患者の心理状態と援助 3) 全身状態を整える (1)術前の検査に対する援助 (2)手術に影響を及ぼす要因の改善 (3)順調な回復を促進するための術前指導 4) 手術前日・当日の援助	4	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
2. 手術中の看護 1) 手術室における看護の展開 (1)患者のアセスメント (2)手術室特有の環境 (3)入室時の看護 2) 麻酔時の看護 (1)麻酔導入時の介助 (2)手術体位の固定 3) 手術中の看護 (1)呼吸を整える (2)循環を整える (3)体温を整える (4)直接介助と間接介助 4) 手術終了時の看護	4	講 義	筆記試験
3. 手術後の看護 1) 手術侵襲からの回復促進 (1)環境を整える (2)呼吸を整える (3)循環を整える (4)疼痛を緩和する (5)早期離床をはかる (6)栄養を整える (7)合併症の予防と対策 2) 創傷治癒過程における看護 (1)手術創部の観察 (2)ドレーンの管理 3) 自己管理にむけた援助	6		
4. 肺切除術を受ける患者の看護 1) 事例を用いて手術前・後の看護を展開する 2) 周手術期に特有な看護技術 (1)手術後ベッドの環境を整える (2)手術後の観察	6	演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 成人看護学 B 急性期にある患者の看護Ⅱ	青木 照明 他編 氏家 幸子 監修	医学書院 廣川書店

2. 心臓に障害のある人の看護

目 標

1. 心臓に障害のある人の特徴と看護問題を理解できる
2. 急性期の病態を理解し、生命を守るための援助方法が理解できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 循環器に障害がある患者の特徴と問題（小中） 1) 身体面への影響 2) 精神面への影響 3) 社会面への影響 4) 生活面への影響 5) 致死的变化の可能性 6) 合併症の予防 7) 危機状況	2	講 義	筆記試験
2. 援助の方法 1) 身体的苦痛への援助 ・主要症状への援助 2) 精神面への援助 3) 治療に伴う援助 4) 日常生活への援助 5) 緊急時の援助 6) リハビリテーション 7) 生活習慣の確立	4		
3. 急性期の看護の実際 ・事例学習：心筋梗塞患者の看護	4	演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3] 循環器	阿部 光樹 他	医学書院

成人看護学方法論Ⅱ リハビリ期にある人の看護

講師名 坂原 直美 五十嵐 幸一

概 要

成人期にあり、リハビリテーション期にある人の特性を踏まえ、障害受容と生活の再構築に必要な看護を学ぶ。この単位では、リハビリテーション期の特徴的な看護を学習し、事例を用いて具体的な看護を考えることで学びを深める。

身体の形態機能の変化および心理・社会状況を、専門基礎分野で学習した知識を想起し、援助の根拠を明確にする努力を期待する。

目 的

リハビリテーション期にある人が、障害受容と生活の再構築をするための看護を学ぶ

目 標

1. リハビリテーション期にあり、障害を持つ人の心理やニーズ及びその家族が理解できる
2. 身体機能に障害がある人の自立への援助方法が理解できる
3. 脳神経に障害のある人のリハビリテーション看護が理解できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
リハビリ期とは 1. 運動器に障害のある患者の特徴と問題 (坂原) 1) 生活上の困難 2) 二次障害 3) 障害の受容過程 4) 患者・家族の社会的問題 2. 援助の方法 (坂原) 1) 機能障害の評価と ADL の確立 2) 疾病や障害の状況の受容と回復への援助 ・装具装着受容への援助 3) 残存能力拡大への援助 4) 二次的障害、合併症等の予防、健康管理 (皮膚の保護・運動) 5) 心身の自立への援助 6) リハビリチームとの連携	16	講 義 演 習	筆記試験
3. 脳・脊髄神経に障害のある患者の特徴と問題 (五十嵐) 1) 生活上の困難 2) 二次障害、合併症 3) ボディイメージの変更 4) 自己概念の障害 5) セルフケアの不足 6) 役割変更	6	講 義	

内 容	時間数	授業形態	評 価
4. 援助の方法（五十嵐） 1) 機能障害の評価と ADL の確立 2) 疾病や障害の状況の受容と回復への支援 3) 残存能力拡大への援助 4) 二次的障害、合併症等の予防 5) リハビリテーションチームとの連携による自立への支援 6) 社会復帰をめざした社会資源の活用 7) 継続看護	8	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10] 運動器	織田 弘美 他	医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経	井出 隆文他	医学書院
成人看護学 D リハビリテーション患者の看護	氏家 幸子 他	廣川書店

成人看護学方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護

講師名 菅野 朱美 小中 祐子

概 要

成人期にある人々の生体機能障害である肝機能障害と糖代謝障害の疾患と病態を理解すると共に、それに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を考え、回復・適応への援助を学ぶものである。この单元ではまず、解剖・生理の視点をもちながら病気のメカニズムを理解し、根拠のある援助を見いだすことが重要である。したがって、主体的に解剖・生理の振り返りをおこなうことが望まれる。

1. 糖代謝に障害のある人の看護

目 的

慢性疾患が人生に及ぼす影響を身体・精神・社会的側面から捉えて、生涯健康の自己管理を必要とする人にセルフケアを促進する看護について学ぶ。

目 標

1. 糖代謝に障害のある人の特徴と看護上の問題について学ぶ
2. 糖代謝機能の障害に応じた援助方法を学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
慢性期とは (小中) 1. 糖代謝に障害のある人の特徴 2. 看護上の課題と観察のポイント 1) 看護上の問題 (1)疾患に対する認識不足 (2)自己管理能力の不足 (3)合併症の進行 (4)治療経過、社会的役割遂行上の不安 2) 観察のポイント (1)身体面 ・高血糖状態とその症状 ・低血糖状態とその症状 ・成人看護の目標 (2)心理・社会的面 ・診断をされたことのショックと不安 ・生涯継続して自己管理を行わなければならないことへの不安 ・役割遂行上の不安 (3)自己管理能力	4	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
3. 援助の方法 1) セルフケア確立への援助 (1)糖尿病受容への援助と心理的サポート (2)糖尿病や治療の理解の確認 (3)食事療法についての説明 (4)運動・薬物療法への援助 (5)日常生活についての指導 2) 症状に応じた援助 (1)低血糖発作 (2)高血糖症状 (3)感染 3) 社会資源の活用	10	講 義 演 習	筆記試験

2. 肝機能に障害のある人の看護

目 標

1. 肝機能障害を持つ人の看護上の課題について理解する
2. 肝機能の障害に応じた援助方法を理解する

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 肝機能障害を持つ人の特徴（菅野） 2. 看護上の課題と観察のポイント 1) 看護上の課題 (1)疾患に対する認識不足 (2)自己管理能力の不足 (3)随伴症状 (4)検査・処置・諸症状に伴う苦痛 (5)治療経過、社会的役割遂行上の不安 2) 観察のポイント (1)全身症状 (2)消化器症状 (3)門脈圧亢進による症状 (4)血液検査 (5)合併症の併発（肝癌・肝性昏睡・食道静脈瘤） 3. 援助の方法 1) セルフケア確立の援助 2) 症状に応じた看護 3) 検査時の援助 4) 社会資源の活用	16	講 義 演 習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
成人看護学 C 慢性疾患患者の看護	氏家 幸子 監修	廣川書店
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5] 消化器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ	黒江 ゆり子 他	医学書院
成人看護学[6] 内分泌・代謝		
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会	文光堂

成人看護学方法論Ⅳ 終末期にある人の看護

講師名 吉川 美喜

概 要

現代社会の特徴や終末期医療の現状を踏まえ、終末期の概念を学ぶ。終末期の対象理解と終末期の特徴的な看護を学習し、事例を用いて看護過程を展開して理解を深める。

また、終末期の全人的なケアにおける理念、倫理的諸問題を理解し、その基本的な方法を習得する。

目 的

終末期にある患者とその家族の QOL を高め、その人らしく生き抜くことができるよう支援する看護を学ぶ

目 標

1. 終末期にある人と家族の特徴が理解できる
2. 終末期にある人と家族に対する援助について理解できる
3. 終末期にある人と家族の看護を理解することができる
4. 終末期患者（がん患者）の事例を通して緩和・ターミナルケアについて理解できる
5. 人間の生と死について考えることができる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 緩和ケアの歴史と現状 1) 緩和ケアの歴史 2) 緩和ケアの理念 3) わが国での緩和ケアの現状 4) 緩和ケアの展望 2. チーム医療 3. 緩和ケアにおける倫理的課題 1) 倫理・生命倫理 2) 緩和ケアをめぐる倫理的課題 4. 緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援 1) 患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション 2) 意思決定を共有するためのコミュニケーションスキル 5. 緩和ケアの対象者の広がり 6. 緩和ケアにおける看護介入 1) 看護介入とは何か 2) 緩和ケアに用いられる看護介入 7. 身体的ケア 1) 身体的ケアの理論と実践 2) 主要な身体症状のマネジメントとケア	20	講 義	筆記試験 (100%)

内 容	時間数	授業形態	評 価
8. 精神的ケア 1) 精神的ケアの理論と実践 2) 主要な精神症状のマネジメントとケア 9. 社会的ケア 10. スピリチュアルケア 11. 家族ケア 12. 緩和ケアにおける看護教育	10	講義	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 緩和ケア	恒藤 暁	医学書院

成人看護学方法論Ⅴ 成人看護過程

講師名 小中 祐子 工藤 幸生

概 要

基礎看護学で学んだヘンダーソンの看護論を用いた看護過程の展開を基盤とし、成人期の役割やライフサイクルの特性とその人が罹患した疾病の特性からアセスメントを深めることに重点を置く。方法論Ⅰ(周手術期にある人の看護)と方法論Ⅲ(糖代謝に異常のある人の看護)で学んだ知識を活用し、援助の根拠を明確にする努力を期待する。

目 的

健康障害をもった成人期にある人の看護過程を展開する技術を学ぶ

1. 慢性期にある人の看護

目 標

慢性の経過をたどる人の健康上の課題をアセスメントし、解決する過程を学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 慢性期看護過程(事例：糖尿病をもつ患者) (小中) 1) 情報アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護目標の設定 4) 看護計画の立案 ※看護過程の留意点 ・発達段階と健康障害をふまえる ・糖尿病で生涯その健康をコントロールしていかなければならない人の看護について学ぶ	10	講 義	筆記試験

2. 手術を受ける人の看護

目 標

周手術期にある人の健康上の課題をアセスメントし、解決する過程を学ぶ

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 周手術期看護過程(事例：肺がんをもつ患者) (工藤) 1) 情報アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護目標の設定 4) 看護計画の立案 ※看護過程の留意点 ・術前・術後(術直後)の看護を考える ・生命力が著しく低下している人の回復促進に向けての看護について学ぶ	20	講 義 演 習	看護過程

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝	黒江ゆり子 他	医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	青木 照明	医学書院

成人看護学実習

目的

成人期にある対象を総合的に理解し、さまざまな健康段階にある対象と家族に必要な看護を実践できる能力を養う

目標

1. ライフステージが成人期にある対象の特徴や発達課題を理解し、対象を総合的にとらえることができる
2. 健康課題のある対象とその家族に健康段階にあった看護が実践できる
3. 疾病の経過、症状、治療処置に応じた看護技術が展開できる
4. 保健医療福祉チームの一員としての看護職の役割を認識し、関連職種との連携・協働の必要性を理解できる

6 単位 (270 時間)

区分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
成人看護学実習 I 急性・回復期	2 (90)	・急性期にある患者の特徴を理解し回復過程を整えるための看護実践能力を養う	<ol style="list-style-type: none">1. 急性状況や手術前にある患者の身体的・心理的状态を整え、状況に適応するための看護ができる2. 急性状況、手術・麻酔侵襲に伴う身体的変化をとらえ、順調な回復にむけて、生体機能・生活過程を整えるための援助ができる3. 闘病意欲を支え、向上にむけての援助ができる4. 退院後の生活と治療の継続に必要な援助ができる5. 医療チームの一員として関連職種との連携・協働の必要性と看護者の役割を理解できる

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
成人看護学実習Ⅱ 慢性・回復期	2 (90)	・疾病が人生に及ぼす影響をとらえ、継続して自己管理を必要とする人とその家族に、セルフケア能力を生かした健康の保持・増進、疾病の予防、回復に向けての看護を実践できる能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1.継続して自己管理を必要とする患者と家族の持つ課題を理解できる 2.患者とその家族の闘病意欲を支えるための援助ができる 3.患者とその家族のセルフケア能力を高めるための援助ができる 4.機能障害による身体的変化や、精神的・社会的影響をとらえることができる 5.ADL の拡大や自立・自律への援助ができる 6.患者とその家族のソーシャルサポートを考えることができる
成人看護学実習Ⅲ 終末期	2 (90)	・終末期にある患者とその家族の QOL を高め、その人らしく生き抜くことができるよう支援する能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1.終末期にある患者の身体的・精神的・社会的苦痛を理解し、緩和するための援助ができる 2.終末期にある患者と家族に対する援助について理解できる 3.患者や家族のニーズをとらえ、その人らしく生き抜くことができるよう支援できる 4.医療チームの方針を理解し、協力して援助を行なうことができる 5.看護実践を通し、自己の死生観をもつことができる

老年看護学

老年期とは人生の完成期である。この期を生きる老年者は、加齢現象に伴う生理的機能低下を余儀なくされる。また、仕事からの引退や他者との別れ、ひいては自らの死にも直面する時期である。しかしそのような挫折感、絶望感を乗り越えることによって、最終的には自らの生涯を統合的に受容していく時期でもある。それゆえ老年期にあっても人間は発達し、成長しつづける存在であるといえる。

したがって老年看護学とは、老年期にある人々の身体的、心理的、社会的変化を捉え、その中における生活、及び彼らを支える家族やその社会という視点で、老年者の多様性を理解していく必要がある。その上で、様々な健康上の課題を持つ老年者とその家族の、その人なりの健康と自立した生活を支える看護を実践していくための基本的な考え方や知識・能力を身につけることを目的としている。

老年者の理解及び看護実践にあたっては、老年者の人権・尊厳を守り、本人及びその家族の意思を尊重する姿勢を持つことが大切である。また、老年者の出来ない部分にばかり着目するのではなく、個々の潜在能力を見出し、あらゆる場面で発揮できることを信じる姿勢で臨むことも大切である。

目的

老年者の健康と自立した生活を支えるための基礎的な知識・能力を身につけ、老年者個々の潜在能力を見出し、発揮するための看護実践の基本を学ぶ。

目標

1. 老年者の身体的・精神的・社会的変化と生活の多様性を理解することが出来る
2. 高齢者を支える家族及びその社会の現状と課題を理解し、健康を支える保健・医療・福祉サービスを理解することができる
3. 老年期に起こりやすい健康課題を理解することが出来る
4. 老年看護学の基本的考え方と看護の機能・役割を理解することが出来る
5. 老年者の健康と自立した生活を支えるための看護が実践できる
6. 老年者個々の健康状態を加齢による身体・心理面への影響、および生活習慣・価値観との関連で捉え、老年者個々の潜在能力を見出し、発揮するための看護実践の考え方を理解することが出来る
7. 老年者の人権・尊厳を守り、本人の意思を尊重する態度を身につける

4 単位 (105 時間) 実習 4 単位(180 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
老年看護学概論	1. 老年期を生きる人々の理解 2. 老いを生きるということ 3. 統計学からの高齢者の理解 4. 高齢者になってみよう 5. 老いるということ 6. 高齢社会における保健医療福祉の動向 7. 高齢社会における倫理 8. 老年看護の基本的考え方 9. 老年看護に携わる者の責務	1	30	1 年次
方法論 I 老年者の健康を支える看護	1. 老年期を生きる人々の健康 2. 老年看護の基本的技術 3. 老年者の健康と自立した生活を支える看護 4. 老年看護技術演習	1	30	2 年次
方法論 II 老年者の健康課題と看護	1. 老年病の理解 2. 老年期に起こりやすい障害・疾病を持つ老年者への看護 3. 治療・処置に伴う老年者の看護 4. 老年者の終末期における看護	1	30	2 年次
方法論 III 老年看護過程	1. 老年看護過程 事例展開 2. 老年看護におけるアセスメントツール	1	15	3 年次
臨地実習				
老年看護学実習 I	1. 老年期にある対象者の看護	2	90	2 年次
老年看護学実習 II	2. 健康課題をもつ老年者の看護	2	90	3 年次

老年看護学概論

講師名 角田 富美子 千田 朋江

目 標

1. 老年期を生きる人々の身体的・精神的・社会的変化を理解することができる
2. 老年期を生きる人々の生活の多様性を理解することができる
3. 高齢者を支える家族と社会の現状を理解し、倫理的課題について考えることができる
4. 老年看護学の基本的考え方を理解し、老年看護に携わる者の責務について考えることができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年期を生きる人々の理解(角田) 「老いをイメージする」	4	講 義 演 習	筆記試験 レポート
2. 老いを生きるということ 1) ライフサイクルからみた老年期 2) 老年期とは	2	GW	
3. 統計学からみた高齢者の理解 1) 人口学的指標から 2) 健康指標と生活の視点から	2		
4. 高齢者になってみよう	4		
5. 老いるということ 1) 加齢と老化 2) 加齢による生理的・身体的変化と日常生活に及ぼす影響 3) 加齢による精神・心理的变化 4) 加齢による社会的変化 5) 高齢者の性	4		
6. 高齢社会における保健医療福祉の動向(千田)	4		
7. 高齢社会における倫理的課題(角田)	8		
8. 老年看護に基本的な考え方と看護者の責務	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

老年看護学方法論Ⅰ 老年者の健康を支える看護

講師名 千田 朋江 池戸 文恵

目 標

1. 老年期を生きる人々の健康の考え方を理解することができる
2. 老年者の健康を踏まえ、自立した生活を支えるための看護が理解できる
3. 老年者の健康と自立した生活を支えるための看護が実践できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年期を生きる人々の健康 (千田) 1) 老年者における健康 2) 老年者の健康の特徴	4	講 義 演 習	筆記試験 技 術 レポート
2. 老年看護の基本的技術 (千田) 1) 老年者の観察 (1)加齢変化の正常と異常 (2)生活障害の程度と範囲 (3)身体兆候と訴え 2) 老年者とのコミュニケーション (1)加齢によるコミュニケーション能力の変化 (2)老年者とのコミュニケーションの方法	4		
3. 老年者の健康と自立した生活を支える看護 (池戸) 1) 事故防止と救急時の対応 2) 活動と休息 3) 睡眠 4) 食生活と栄養 5) 排泄 6) 清潔と身だしなみ 7) 生きがづくり	14		
4. 老年看護技術 (状況設定) (千田・池戸) 1) 排泄の援助：介助用トイレ・ポータブルトイレ・オムツ 2) 車椅子への移乗 3) 食事介助・口腔ケア	8	学内演習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 写真でわかる高齢者ケア	北川 公子 他 東京都健康長寿医療 センター看護部	医学書院 インターメディカ

老年看護学方法論Ⅱ 老年者の健康課題と看護

講師名 長谷 泰司 千田 朋江

目 標

1. 老年者に起こりやすい健康課題とその特徴を理解することが出来る
2. 老年者に起こりやすい健康課題を持つ老年者とその家族の看護を理解することが出来る

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.老年病の理解 (長谷) 1) 老年者の疾患の特徴 2) 老年者の主要な症候と起こりやすい問題	8	講 義	筆記試験
2.老年期に起こりやすい障害・疾病を持つ老年者への看護 (千田) 1) 摂食・嚥下障害 2) 脱水 3) 骨折・廃用症候群 4) 認知症 5) 生活機能障害	16		
3.治療・処置に伴う老年者の看護 (千田) 1) 入院・診療 2) 手術療法 3) 薬物療法	4		
4.老年者の終末期における看護 (千田) 1) 老年者の死の捉え方 2) 死の迎え方の意向 (リビングウィル) と対応 3) 家族の参加と家族への看護	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

老年看護学方法論Ⅲ 老年看護過程

講師名 千田 朋江 池戸 文恵

目 標

1. 健康課題を持った老年者とその家族についてのアセスメントができる
2. 老年者個々の健康課題を、加齢による身体・精神・心理面への影響、生活習慣・価値観との関連で捉えることができる
3. 老年者の健康課題が家族に及ぼす影響を理解することができる
4. 老年者およびその家族の健康と自立を支えるための個別性のある看護計画が立案できる
5. 老年者の看護実践に対する評価の考え方が理解できる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年看護過程 事例展開 1) アセスメント 2) 看護問題 3) 看護問題と援助の方向性の明確化 4) 看護目標の設定と計画の立案 5) 実施・評価	13	GW	筆記試験 (50%) 看護過程 (50%)
2. 老年看護におけるアセスメントツール ・MDS2.1、RAPs	2	講 義	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

老年看護学実習

目 的

老年期にある対象者の特徴を理解し、加齢に応じた看護および健康課題をもつ老年者とその家族への看護が実践できる基礎的能力を養う。

目 標

1. 老年期にある対象者とその家族の特徴が理解できる
2. 老年者に適したコミュニケーションの方法を理解でき、相互関係を成立させることができる
3. 加齢による変化と、健康課題による日常生活への影響を理解し、老年期にある患者とその家族に必要な看護を実施できる
4. 老年者の安全・安楽・自立を考慮した生活援助が実施できる
5. 老年看護を通し、保健・医療・福祉チームの実際と連携の必要性を理解し、看護職の役割を理解できる
6. 実習を通して、自己の老年観・看護観を形成し発展できる

4 単位 (180 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
老年看護学実習 I 老年期にある対象者の看護	2 (90)	・ 老年期にある対象者の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解し、日常生活への影響を踏まえた老年看護の基礎を学ぶ	1. 老年期にある対象者の、身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解することが出来る 2. 加齢に伴う変化や生活歴との関連で対象者の日常生活上の問題を捉えることが出来る、健康維持・増進・自立に向けた日常生活援助が実施できる 3. 老年期にある対象者の特徴をふまえ、対象に応じたコミュニケーションが図れる 4. 老年期にある対象者とその家族に対する保健・福祉サービスシステムと支援の実際を理解することができる 5. 実習を通して老年観形成ができる

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
老年看護学実習Ⅱ 健康課題をもつ老年者の看護	2 (90)	・健康課題をもつ老年者とその家族を理解し、それらを踏まえた個別的な看護が実践できる能力を養う	1.健康課題を持つ老年者とその家族の特徴を理解することができる 2.健康課題を持つ老年者とその家族に必要な看護を、看護過程を活用して実践できる 3.健康課題を持つ老年者の特徴を踏まえ、安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助ができる 4.老年看護を通して、保健・医療・福祉チームが連携をとる必要性を理解し、看護チームの一員として行動できる 5.実習を通して自己の老年観・看護観を形成し発展できる

小児看護学

時代の推移や社会の変化に伴い、子どもが一人の人間としての権利が重視されるようになった。子どもは大人になるための成長・発達過程であり、子どもの心身の成長・発達過程や特徴を理解し、子どもを取り巻く母親・父親・家族あるいは家庭以外の環境を含めた視点で対象を理解する必要がある。看護の役割は広い視野に立ち子どもを見ることと、常に環境の影響を受けやすい存在であることを視野に入れて健康な子どもから、健康問題と障害をもつ子どもと母親を含めた看護を考えていかなければならない。出生率の低下が進み、健康な子どもをいかに健康に育てるか、疾病構造と医学の進歩による治療法の変化により、慢性・難治性の疾患をもつ子どもが自分自身の病気をどのように受け入れ生活していくか、病気の自己理解のための働きかけも看護の重要な役割となってきている。また発達障害や心身障害児のノーマライゼーションが重視され、健康児と生活行動を共にすることも人権として考えていく必要がある。合わせて子どもが成長発達するための社会資源（福祉・教育資源・他職種との関係など）の活用の理解も必要である。

小児期の育児環境の変化からくる虐待・不登校・いじめなどの問題も小児看護の対象を理解するうえで大切である。

目 的

小児の成長発達について理解し、社会の変化が小児にどのように影響しているかを考え、健康問題や障害をもつ小児と家族の看護を学ぶ。

目 標

1. 小児看護の場と役割を理解する
2. 小児看護の対象を理解する
3. 小児保健医療の動向、健康の諸問題を理解する
4. 小児の成長発達課題を理解し、小児が健康な生活を送るために必要な援助を学ぶ
5. 小児を支える社会のサポートシステムについて理解する
6. 小児期に多い主な疾患別の看護援助を習得する
7. 事例演習を通して、小児と家族に必要な看護過程の展開ができる
8. 小児に特有な看護技術を科学的根拠に基づき、実践する基礎的能力を身につける

4 単位 (105 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
小児看護学概論	1.小児看護の対象 2.小児を取り巻く医療環境 3.小児看護の特徴 4.母子保健の動向と小児保健統計 5.小児の成長と発達 6.小児の発達段階に応じた世話	1	30	2 年次
方法論 I 小児期に多い疾患の 理解	1.先天異常 2.新生児疾患 3.代謝性疾患 4.内分泌疾患 5.免疫・アレルギー・リウマチ疾患 6.感染症 7.呼吸器疾患 8.循環器疾患 9.消化器疾患 10.血液・造血器疾患 11.悪性新生物 12.腎・泌尿器疾患 13.神経疾患 14.子どもの虐待	1	15	2 年次
方法論 II 小児の健康問題と 看護	1.小児と健康問題 2.子どもと入院生活 3.発達段階別、子どもの入院環境と生活援助 4.小児期に多くみられる症状と看護 5.経過別の看護 2.小児期に直面しやすい状況と看護 7.子どもと在宅生活	1	30	2 年次
方法論 III 小児看護学演習	1.基本となる小児看護技術 2.事例を用いた看護過程の展開	1	30	2 年次
臨地実習				3 年次
小児看護学実習 1	健康な小児の看護	2	30	
小児看護学実習 2	健康問題をもつ小児の看護		30	
小児看護学実習 3	障害をもちながら生活している小児の看護		30	

小児看護学概論

講師名 坂原 直美

目 的

1. 小児看護の対象となる小児の特徴を理解し、看護と役割を学ぶ
2. 小児の成長発達を理解し、健康児の保育の考え方や健康児への援助の方法を学ぶ

目 標

1. 小児看護の対象を理解する
2. 小児看護の歴史の変遷から現状の小児看護を理解し、さらに小児医療・疾病構造の変化と看護の考え方を学ぶ
3. 小児の成長・発達課題を理解する
4. 小児看護の特徴を理解し、小児看護の機能と目的を学ぶ
5. 小児保健の動向や健康の諸問題を理解する
6. 小児が健康な生活を送るための必要な援助を理解する
7. 小児各期の一般的健康問題と保健活動を理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.小児看護の対象 1) 小児とは 2) ライフサイクルからみた小児：年齢区分 3) 小児と家族 (1)小児にとっての家族 (2)家族関係と現状	4	講 義 VTR 「さくら んぼ坊 や」	筆記試験
2.小児を取り巻く医療環境 1) 小児医療の変遷 2) 小児看護の変遷 3) これからの小児医療・小児看護の課題 ・子どもの人権と看護 生命倫理、児童憲章、児童の権利に関する条約 アドボカシー、インフォームドコンセント インフォームドアセント、マルチリートメント 虐待	6	インビュー 子ども観	

内 容	時間数	授業形態	評 価
<p>3.小児看護の特徴</p> <p>1) 小児看護の対象と目標 (1)小児看護の対象 (2)小児看護の目標</p> <p>2) 小児看護の特徴 ・成人との違いと小児の特徴</p> <p>3) 小児看護の場と役割 (1)小児看護の場 (2)小児看護の役割 (3)他職種との連携 (4)ヘルスプロモーション</p>	4	講 義 GW VTR	筆記試験
<p>4.母子保健の動向と小児保健統計</p> <p>1) 母子保健の動向 (1)母子保健の目的と動向 (2)母子保健 (3)学校保健 (4)小児の事故防止と安全教育 (5)予防接種 (6)虐待</p> <p>2) 小児の保健統計 (1)小児の人口推移 (2)母子保健に関する人口動態統計の年次</p>	6		
<p>5.小児の成長と発達</p> <p>1) 成長発達の原則 2) 形態的発達 3) 機能的発達 4) 知的・心理的・社会的発達 ・認知、情緒、社会性、コミュニケーション、遊び、 発達課題</p> <p>5) 発育・発達評価</p>	4		
<p>6.小児の発達段階に応じた世話</p> <p>1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期 (1)健康な生活 食事、睡眠、清潔、排泄、活動(遊び・学習) (2)健康問題 (3)発達に応じた世話と健康増進のための看護</p>	6		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書 小児看護学1 小児看護概論・小児保健	松尾 宣武 濱中 喜代	メヂカルフレンド社

小児看護学方法論 I 小児期に多い疾患の理解

講師名 東館 義仁

目的

小児期のおもな疾患を理解し、看護援助に必要な基礎知識を学ぶ

目標

患児とその家族の心理状態を念頭に置きつつ、各章毎に代表的疾患について疫学、病態、症状、診断、治療および予後を理解する

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.1)第 1 章 先天異常 (1)ダウン症候群 (2)脆弱 X 症候群 2)第 2 章 新生児疾患 (1)仮死 (2)呼吸窮迫症候群 (3)SFD 2.1)第 3 章 代謝性疾患 (1)フェニルケトン尿症 (2) I 型糖尿病 2)第 4 章 内分泌疾患 (1)クレチン症 (2)クッシング症候群 3.1)第 5 章 免疫・アレルギー・リウマチ疾患 (1)気管支喘息 (2)食物アレルギー (3)SLE 4.1)第 6 章 感染症 (1)麻疹 (2)風疹 (3)予防接種 5.1)第 7 章 呼吸器疾患 (1)クループ (2)かぜ症候群 (3)マイコプラズマ肺炎 2)第 8 章 循環器疾患 (1)VSD (2)ASD (3)TOF (4)川崎病 6.1)第 9 章 消化器疾患 (1)急性胃腸炎 (2)腸重積症 (3)ヒルシュスプルング病 2)第 10 章 血液・造血器疾患 (1)血友病 (2)特発性血小板減少症 (3)溶血性貧血 7.1)第 11 章 悪性新生物 (1)白血病 (2)神経芽腫 2)第 12 章 腎・泌尿器疾患 (1)急性糸球体腎炎 (2)ネフローゼ症候群 (3)尿路感染症 8.1)第 13 章 神経疾患 (1)てんかん (2)CP (3)筋ジストロフィー 2)第 20 章 子どもの虐待 (1)乳児ゆさぶられっこ症候群 (2)代理のミュンヒハウゼン症候群	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野 II 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院

小児看護学方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護

講師名 中野 早苗 小六 真千子

目的

病気・入院が小児や家族に及ぼす影響を理解し、健康問題や障害をもつ小児と家族の看護について学ぶ

目標

1. 小児の成長発達に影響を及ぼす健康問題について理解する
2. 小児と家族の状況に応じた援助、成長発達に合わせた生活支援を考えられる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.小児と健康問題 1) 小児にとっての健康問題 2) 障害をもつ小児と家族の反応	2	講 義 GW	筆記試験
2.子どもと入院生活 (中野) 1) 病気及び入院生活による影響 ・母子分離不安と心理的混乱 ・子どもの入院と母親・家族 (きょうだい) ・子どもの病気の理解と受容 ・ラザレスのストレス認知・対処理論 2) 短期入院による影響 3) 長期入院による影響	6		
3.発達段階別、子どもの入院環境と生活の援助 ・インフォームドコンセントとアセント ・プレパレーション	4		
4.小児期に多くみられる症状と看護 1) 小児期にみられる症状の特徴 2) 小児期にみられる主な症状と看護 発熱・発疹・痙攣・嘔吐・下痢・嘔吐・脱水・呼吸困難・チアノーゼ・痛み・ショック・黄疸・浮腫・掻痒感	4		
5.経過別の看護 1) 急性期にある小児と家族 2) 慢性期にある小児と家族 3) ターミナル期の小児と家族 ・子どもの死の概念 ・予後不良と子どもの生活 ・死に対する子ども、家族、同室児の反応と援助	4		

内 容	時間数	授業形態	評 価
6.小児期に直面しやすい状況と看護 1) 治療処置、検査を受ける小児と家族 2) 行動制限が必要な小児と家族 3) 手術を受ける小児と家族	6	講 義	筆記試験
7.子どもと在宅生活 ・外来における子どもの看護とセルフケア	2		
8.障害をもつ子どもの療育（小六） ・重症心身障害児の理解 ・重症心身障害児の療育	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
新体系看護学全書 小児看護学 2 健康障害をもつ小児の看護	松尾 宣武 濱中 喜代	メヂカルフレンド社
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 子どもの病気の地図帳	奈良間 美保 鴨下 重彦 柳澤 正義	医学書院 講談社

小児看護学方法論Ⅲ 小児看護学演習

講師名 中野 早苗 白石 直美

目 的

小児看護に必要な看護技術を理解し、効果的な看護を実践するための技術を学ぶ

目 標

1. 小児看護に特徴的な技術を実践できる
2. 小児の健康問題を解決するため、アセスメント能力を高め看護過程を展開する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.基本となる小児看護技術 (中野) 1) コミュニケーション技術 2) フィジカルアセスメント (1)フィジカルアセスメントの原則・注意点 (2)身体計測 ・身長・体重・頭囲・胸囲・大泉門 (3)バイタルサイン ・呼吸・脈拍・体温・血圧 (4)診療に伴う援助技術 ・救急処置・輸液管理・与薬・腰椎穿刺・骨髄穿刺	14	講 義 演 習	筆記試験 50% 提出物 50%
2.事例を用いた看護過程の展開 (白石) 1) 子どもの看護過程の特徴 2) 子どものアセスメントガイド 3) 発達段階別・事例を用いた看護過程の展開 (1)乳児期：乳糖不耐症 (2)乳幼児期：川崎病 (3)幼児期：気管支喘息、アレルギー性紫斑病 (4)学童期：ネフローゼ	16	講 義 GW	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書 小児看護学 1 小児看護概論・小児保健	松尾 宣武 濱中 喜代	メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 小児看護学 2 健康障害をもつ小児の看護	松尾 宣武 濱中 喜代	メヂカルフレンド社
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
子どもの病気の地図帳	鴨下 重彦 柳澤 正義	講談社
看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	添田 啓子 他	メヂカルフレンド社

小児看護学実習

目 的

小児期にある対象の特徴と家族を理解し、成長・発達と健康段階に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う

目 標

1. 小児の成長・発達の特徴が理解できる
2. 小児の発達段階に応じた生活と養護について理解できる
3. 小児に適したコミュニケーションの方法を学び、よりよい関係づくりができる
4. 健康障害が小児とその家族に及ぼす影響を理解できる
5. 健康障害をもつ小児とその家族に対して、成長・発達をふまえた個別的な看護が実践できる
6. 小児看護に必要な基本的看護技術が実施できる
7. 小児看護における看護職の役割を認識し、他職種と連携を取ることの必要性が理解できる
8. 自己の小児観を培い、小児を尊重する態度を身につける

2 単位 (90 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
小児看護学実習 1 ・健康な小児の看護	2 (30)	・健康な乳幼児の生活と援助の方法を保育園実習を通して学ぶ	1.健康な乳幼児の成長・発達の 特徴が理解できる 2.乳幼児の発達段階に応じた 生活と保育の特徴が理解で きる 3.乳幼児に適したコミュニケ ーションの実際を学び、より よい関係作りができる 4. 乳幼児の集団生活における 健康管理、安全の重要性が理 解できる 5. 保育活動を通して、保育者 の役割が理解できる 6.自己の小児観を培い、小児を 尊重する態度を身につける

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
小児看護学実習 2 ・健康問題をもつ小児の看護	(30)	・健康を障害された小児と家族を理解し、成長・発達を踏まえた看護が実践できる	1.受け持ち患児の成長・発達段階や家族状況を理解する 2.受け持ち患児の特徴、健康障害の状況を理解し、日々の行動計画表を用いて看護を実践できる 3.小児の成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる 4.患児の援助に必要な小児看護技術を習得できる 5.小児の安全を守るために必要な援助を理解できる 6.小児の継続看護における看護師の役割を理解できる 7.自己の小児観を培い、小児を尊重する態度を身につける
小児看護学実習 3 ・障害をもちながら生活している小児の看護	(30)	・障害のある利用者の日常生活と援助の方法を療育施設実習を通して学ぶ	1.障害のある利用者の疾病を理解し、成長・発達段階と家族の状況がわかる 2.障害のある利用者の特徴や障害を理解し、対象の看護がわかる 3.障害のある利用者の日常生活で安全面を考慮しながら援助が実践できる 4.障害のある利用者に必要な看護技術が習得できる 5.障害のある利用者がその人らしく生きる姿に共感できる

母性看護学

母性とは、人が女性という性をもって生まれ母親となりうる可能性を兼ね備えているなかで、常に子どもとの関係の中での、母となりえる性を意識した概念である。女性は身体的に体内に子どもを宿すことのできる特性をもち、母性愛に代表されるような慈しみの心をもち、社会的にも次世代育成という役割を意識する。そのような中で母性看護とは、親となることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す看護学である。

しかし、近年社会構造の変化に伴い、女性のライフスタイルも変化し、子どもを生み育てることへの価値観など、従来の母性の概念を変容せられざるを得ない時代となった。女性はその歴史的背景の中で、女性であるが故に不利益をうけてきたことに鑑み、1990年WHOで、1994年には国連カイロ会議で採択されたリプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を中心に考えていくことが、世界的見解として大前提となっている。このことから、母性を「産む性」とした従来の生物学的な性の捉え方から、心理社会的特性としての「ジェンダー」を意識した女性という視点に捉え直すことが必要である。

女性のライフサイクルをとらえた時に、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期といった女性のアイデンティティに関わる周期をもつ。母性とは、女性の中にあるひとつの特徴的なものの見方であるという考え方をもちながら、母性看護はマタニティサイクルに限定することなく、広くライフサイクルのあらゆる段階で生活する女性を対象とする。女性のライフサイクルのなかでおこりえる特有の健康障害はもとより、女性自身の生き方や考え方を含め、社会の中にある女性を支援しエンパワメントを発揮しながら、ヘルスプロモーションの視点に立った女性自身が自らの生き方を自分で選択していただけることを支援することが母性看護学の目指すところである。

さらに、医療技術の進歩はめざましいものがある。特に女性にまつわる生殖医療技術は、不妊治療や代理母、子宮移植などに代表されるように、「Bioethics：生命の倫理」という究極の問いを突きつけられている。人間の生命の尊厳を根底に据えながらも、今何が問われ行われているのかという社会に目を向けながら、看護者としてどのように考え行動するかという倫理的態度をもちこれらを判断していただけることが大切である。

目的

母性看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、生命の尊厳を基盤として母性機能を健全に発揮するための看護と、女性の一生を通じその対象に応じた看護援助の基本を学ぶ。

目標

1. 母性（父性）の特徴をふまえ、母性を取り巻く環境と看護の役割を理解する
2. 女性のライフサイクル各期の特徴を把握し、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づく母性看護の重要性を理解する
3. 女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う
4. 母子関係、家族関係の形成を支援することの大切さと、多様な価値観を学ぶ
5. 母性保健の動向と母子保健医療チームにおける看護者の役割を理解する
6. 母性看護の対象者を総合的にとらえ、生命倫理と看護倫理について考える

4 単位 (90 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
母性看護学概論	1.母性看護とは 2.母性看護に役立つ概念と理念 3.母性の健康と社会 4.母性保健をめぐる課題 5.女性のライフサイクル各期における看護	1	30	2 年前期
方法論 I 周産期における女性の看護	1.妊娠期における看護 2.分娩期における看護 3.産褥期における看護 4.新生児期における看護	1	30	2 年前期
方法論 II 周産期における異常と看護・ 母性看護の展開方法	1.妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護 2.母性看護の展開方法	1	15	2 年後期
方法論 III 母性における看護技術	1.母性看護に使われる看護技術 (沐浴、計測) 2.母性看護における看護過程	1	15	2 年後期
臨地実習 母性看護学実習	1.妊婦・産婦・褥婦の看護 2.新生児の看護 3.母子保健システム・医療チーム における看護の役割	2	90	3 年次

母性看護学概論

講師名 岩崎 加奈子 佐々木 恵子

目 的

1. 母性の特徴と母性の基盤となる概念を学び、社会の変遷と現状における女性におかれている課題や役割について理解を深める
2. 女性のライフサイクルを通して母性の発揮を促すための方法と健康の保持・増進に向けて支援する方法を理解する

目 標

1. 母性の特性を学び、セクシャリティ及びリプロダクティブヘルス／ライツの概念を理解する
2. 生涯にわたる女性の健康に関わることを理解する
3. 母性を取り巻く歴史や社会の変遷を理解する
4. 母性看護の対象者とライフサイクル各期の看護を理解する
5. 母性の発揮を促す看護の方法を理解する
6. 母性に関わる倫理的問題について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.母性看護とは (岩崎) 1) 母性・父性とは：親になること 母性をめぐる定義 2) 母性関係と家族の発達：母子関係形成 家族機能 3) セクシャリティ 4) リプロダクティブヘルス／ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理：生命倫理 看護倫理	6	講 義	筆記試験 (70%)
2.母性看護に役立つ概念と理念 (岩崎) 1) 愛着形成 2) 母子分離 3) 母子相互作用 4) セクシュアリティ	2		
3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (岩崎) 1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境	2		
4. リプロダクティブヘルスケア (佐々木) 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) H I Vに感染した女性に対する看護 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 喫煙女性の健康と看護 6) 性暴力を受けた女性に対する看護 7) 児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護	4		

内 容	時間数	授業形態	評 価
5.女性のライフステージ各期における看護（佐々木） 1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 2) 女性・家族のライフサイクル 3) 母性の発達・成熟・継承 4) 思春期、成熟期、更年期、老年期の健康と看護	16	講 義 GW ロールプレイ	GW・ロール プレイの参 加状況およ び内容、学習 態度(30%)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①	森 恵美 他	医学書院

母性看護学方法論Ⅰ 周産期における女性の看護

講師名 窪田 有紀

目的

周産期および新生児の生理的経過とそのアセスメントについて学び、それぞれの過程においてセルフケア能力を高め適応促進に向けた看護の方法を理解する。

目標

1. 妊産褥婦の身体的特徴と心理的・社会的変化を理解する
2. 妊娠、分娩、産褥の経過について学び、各期に必要なアセスメントと看護を理解する
3. 妊娠、分娩、産褥各期の母子、家族の関係や形成に必要な看護について理解する
4. 新生児の生理とアセスメントについて理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体のしくみ 2) 妊娠期の心理社会的な変化 3) 妊娠期のアセスメント 4) 妊娠期の母子の健康を保つための看護 5) 妊娠期の家族の変化	10	講 義	筆記試験
2.分娩期における看護 1) 分娩の生理 2) 分娩期の心理社会的な変化 3) 分娩期のアセスメント 4) 分娩期の母子の健康を保つための看護 5) 分娩期の家族の変化	8		
3.産褥期における看護 1) 産褥の経過 2) 産褥期のアセスメント 3) 産褥期の母子の健康を保つための看護 4) 産褥期の家族の変化	8		
4.新生児期における看護 1) 新生児の特徴 2) 子宮外環境への適応 3) 新生児の看護	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②	森 恵美 他	医学書院

母性看護学方法論Ⅱ 周産期における異常と看護・母性看護の展開方法

講師名 窪田 有紀 岩崎 加奈子

目的

周産期における異常及び新生児の異常とその看護を理解し、さらに母性看護における情報収集・アセスメント技術の方法を学び、母子を関連させ異常の予測を包括した看護を考えることができる。

目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におこる異常とその看護について理解する
2. 母子、家族に必要な情報収集・アセスメントから母性看護の展開方法について理解する

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護 (窪田) 1) 妊婦と胎児にみられる異常と看護 ・ハイリスク妊娠・流早産・妊婦高血圧症候群・合併症 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・胎児の形態異常 ・出生前診断とケア 2) 産婦にみられる異常と看護 ・娩出力の異常・産道の異常・分娩障害・異常出血 ・胎児機能不全・帝王切開・分娩異常,産科処置と看護 3) 褥婦にみられる異常と看護 ・子宮復古不全・産褥熱,感染症・血栓症・乳房の異常 ・産後の精神障害 4) 新生児にみられる異常と看護 ・低出生体重児・呼吸器疾患・新生児仮死・分娩外傷 ・高ビリルビン血症・ハイリスク新生児の看護	11	講 義	筆記試験
2.母性看護の展開方法 (岩崎) 1) ウェルネスの考え方 2) 情報収集・アセスメント 3) 看護診断 4) 看護計画立案、実践・評価の方法	4	講 義	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②	森 恵美 他	医学書院

母性看護学方法論Ⅲ 母性における看護技術

講師名 岩崎 加奈子 窪田 有紀

目的

母子とその家族が健康的な生活を営むために必要な看護技術と看護過程の展開について学ぶ。

目標

1. 母性に特徴的な看護技術について理解する
2. 産褥期・新生児期の看護過程について理解する

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.母性看護に使われる看護技術 (窪田) ・沐浴 計測	4	講 義 演 習	実技試験 (30%) 看護過程 (60%) 演習参加状 況 (10%)
2.母性看護における看護過程 (岩崎) ・産褥期・新生児期の事例による看護過程の展開 (ウェルネス・セルフケアの視点、アセスメント・ 看護診断・実施・評価のポイント)	11		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①	森 恵美 他	医学書院
母性看護学各論 母性看護学②	森 恵美 他	医学書院
ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護	東野 妙子 他	医歯薬出版株式会社

母性看護学実習

目 的

女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う

目 標

1. マタニティサイクルにある対象とその家族の特徴を理解できる
2. マタニティサイクルにある対象が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程を展開できる
3. 母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる
4. 母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる
5. 生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

2 単位 (90 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
母性看護学実習	2 (90)	<p>・女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルにある対象とその家族の特徴を理解できる 2. マタニティサイクルにある対象が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程が展開できる 3. 母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる 4. 母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる 5. 生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

精神看護学

現代の社会構造は複雑になっており、その歪みとしての、いじめ・職場不適合等様々な心の問題を生じている。心のバランスを崩したり、心を病む状況は、誰しにも起こる可能性があり、あらゆる看護場面で遭遇する。したがって、その状況を引き起こす要因やメカニズム・かかわり方の基本を学ぶ必要がある。

また、社会情勢の変化に伴い、薬物などの依存症や自殺の増加など身近な問題として着目されている。かつての精神医療は精神障害者を隔離してきた。しかし、これからは地域社会において経済的な自立を促し QOL を高めるといふ、ノーマライゼーションの考えに立って、保健・医療・福祉の一体化を目指したものへとその姿を変えている。

これらのことから、精神看護は単に精神障害者の看護ではなく、心の問題を抱えているあらゆる人々を精神的にサポートする活動となる。また、健康者に対しての心の健康を維持増進できるようにする活動でもある。したがって、精神看護学では、心の健康を維持するために必要な知識や技術、心のバランスを崩したり、崩しそうな状況とその対応について学習する。

目的

人間の心の健康を、成長・発達・社会状況の面から捉え、心の健康の保持増進、精神障害の予防および精神に障害をきたした人への看護を統合的に学ぶ。

目標

1. 心の構造と機能、現代の社会生活がこころの健康に及ぼす影響を理解し、精神看護の目的と意義が理解できる
2. 精神障害に至る過程と精神障害に対する検査、治療法が理解できる
3. 精神看護における援助の方法と場、精神保健福祉チームと看護者の役割が理解できる
4. 地域におけるリハビリテーションサービスについて社会資源の活用方法を理解できる
5. 精神を障害された人に必要な看護が実践できる

4 単位 (105 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
精神看護学概論	1.精神看護学の基本概念 2.ライフサイクルと心の成長発達 3.生活の環境と精神保健 4.医療現場における精神保健 5.精神医療で用いられる理論 6.地域精神保健活動の展開 7.精神保健福祉、医療制度の歴史と今後の課題	1	30	1 年次
方法論Ⅰ 精神疾患の理解	1.精神症状と疾患の理解 2.診断 3.代表的な障害 4.検査の種類 5.治療の実際とアプローチ	1	15	1 年次
方法論Ⅱ 精神を障害された人の看護	1.患者看護の基本 2.患者家族の理解とその援助 3.主な症状に対する看護 4.診察・検査および治療に伴う看護 5.精神障害者の看護 6.精神科リハビリテーションの展開 7.リエゾン精神看護	1	30	2 年次
方法論Ⅲ 看護過程	1.看護に必要な情報 2.看護目標の設定と計画の立案 3.看護実践 4.評価 5.看護過程演習	1	30	2 年次
臨地実習 精神看護学実習	1.精神に障害を持つ対象の理解 2.精神看護の特殊性の理解 3.必要な看護の実践	2	90	3 年次

精神看護学概論

講師名 山崎 陽子

目 的

人間の精神の働きや問題を健康の視点から理解し、その理解を看護場面で適切に活用できる基礎的な能力を学習する。

目 標

1. 精神看護の目的と意義、対象について理解できる
2. 心の成長発達のプロセスや社会状況の中で起こる危機と理論を理解できる
3. 精神医療で用いられる理論・モデルについて理解できる
4. 生活の場における対人相互関係を理解し取り巻く環境と精神保健について学ぶ
5. 地域における精神保健について理解できる
6. 精神保健医療と看護の変遷と今後の課題について理解できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.精神看護学の基本概念	2	講 義	筆記試験
2.ライフサイクルと心の成長発達 1) 身体の成長と心の発達 2) 性の概念と意義 3) 発達段階における心と性 4) 性意識・性行動の形成 5) エリクソンの成長発達モデル 6) ハビガーストの発達課題	10		
3.生活の環境と精神保健 1) 暮らしの場と精神保健 2) 教育の場と精神保健 3) 職場における精神保健 4) 地域保健活動と精神保健	8		
4.医療現場における精神保健	2		
5.精神医療で用いられる理論 1) 認知行動理論 2) ペプロウの看護論	2		
6.地域精神保健活動の展開	2		
7.精神保健福祉、医療制度の歴史と今後の課題	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論 精神保健 精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎 弥生 他	メヂカルフレンド社

精神看護学方法論 I 精神疾患の理解

講師名 吉田 拓

目的

精神疾患、症状の特徴、および治療法を学ぶ。

目標

1. 精神に障害をもった人を理解するための基礎知識として健康障害および状態像を学ぶ
2. 精神科治療に必要な診断の基礎や主な検査について理解できる
3. 精神科で行われている主な治療法を理解できる
4. 主な精神疾患の種類、症状、治療について理解できる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.精神症状と疾患の理解 1) 精神症状と障害 2) 状態像 3) 中枢神経症状	4	講 義	筆記試験
2.診断 1) 疾患の分類 2) 診断の要点と診断基準	2		
3.代表的な障害 1) 統合失調症 2) 気分障害および関連障害群 3) 神経症性障害、ストレス関連障害 4) パーソナリティ障害 5) 精神作用物質に関連した精神障害 6) 神経発達障害群	4		
4.検査の種類 1) 精神科における身体的検査 2) 精神科における心理検査	2		
5.治療の実際とアプローチ 1) 身体への働きかけ 2) 内面への働きかけ 3) 環境への働きかけ	3		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎 弥生 他	メヂカルフレンド社

精神看護学方法論Ⅱ 精神を障害された人の看護

講師名 蔵重 勉

目 的

精神を障害された人の疾患、症状の特徴、および治療法を理解し、その基本的な看護援助を学ぶ。

目 標

1. 精神を障害された人の看護の目的や役割について理解できる
2. 治療的なコミュニケーションについて学び、対人関係を成立するための援助について理解できる
3. 精神を障害された人の治療における援助について理解できる
4. 主要な症状や障害の段階に応じた看護の役割や援助方法について理解できる
5. 精神を障害された人の社会復帰活動と社会支援システムにおける看護の役割を理解できる
6. 精神を障害された人の人権擁護に共感できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.精神障害をもつ人と「患者-看護師」関係の構築 1) 精神障害をもつ人とのかかわりかた 2) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション 3) 精神障害をもつ人との関係の振り返り 2.精神障害をもつ人への看護援助の展開 1) 精神障害をもつ人のセルフケアの援助 2) 患者による自己管理 3.精神障害をもつ人への看護 1) 精神科病棟という治療的環境と患者の生活 2) 事例で学ぶ看護 4.精神障害をもつ人の地域における生活への支援 5.わが国の精神看護の発展 1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医学と看護 3) 災害時の精神保健：災害時地域精神保健医療活動と心のケア	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎 弥生 他	メヂカルフレンド社
看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術	山本 勝則 他	メヂカルフレンド社

精神看護学方法論Ⅲ 看護過程

講師名 菅野 朱美 差波 やよい

目的

精神を障害された人の看護過程を展開する技術を学ぶ。

目標

1. 精神を障害された人についての必要な情報を収集し、アセスメントできる
2. 精神を障害された人の健康上問題について計画立案できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護に必要な情報 1) 基本的欲求の充足に影響を及ぼす常在条件 2) 基本的欲求の充足に影響を及ぼす病理的状态 3) アセスメント 2.看護目標の設定と計画の立案 3.看護実践 4.評価 5.看護過程演習	6 24	講 義	筆記試験 展開された 看護過程

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論 精神保健精 神看護学②精神障害をもつ人の看護 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術	岩崎 弥生 他 山本 勝則 他	メヂカルフレンド社 メヂカルフレンド社

精神看護学実習

目的

精神に障害のある対象を理解し、精神の健康を回復するために必要な看護が実践できる基礎的な能力を養う。

目標

1. 精神障害のある患者との関わりを通して精神障害者を理解できる
2. 精神状態が日常生活に与える影響を捉え、自立に向けての援助ができる
3. 患者・看護者の相互関係の中で自己を振り返り、治療的な関わりに至る発展過程を理解できる
4. 治療過程における看護者の役割が理解できる
5. 精神医療における生活支援活動を知り、看護の役割・機能を考えることができる

2 単位 (90 時間)

区分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
精神看護学実習	2 (90)	・精神障害によって日常生活に支障をきたした人に対して、精神的健康を可能な限り回復し人間的尊厳を持って、その人が望む生活をその人らしく送れるように援助する基礎的な能力を養う。	1.精神に障害を持つ人の心と行動を生物学的・心理学的・社会学的側面から理解する 2.精神状態が日常生活に与える影響を捉え、自立に向けての援助を実施する 3.患者・看護者の相互関係の中で自己を振り返り、治療的な関わりに至る発展過程を理解する 4.治療過程における看護の役割を理解し、効果的な治療を行えるための援助ができる 5.精神科における生活支援活動や地域で行われている保健・医療・福祉のアプローチについて知る

統 合 分 野

目 的

さまざまな健康段階にある様々な対象者の状況に応じて、必要な看護を判断、選択し、安全で良質な看護を包括的に提供できる基礎的能力を養う。

14 単位（255 時間） 実習 4 単位（180 時間）

教 育 内 容	授 業 科 目	単 位 数	時 間 数	実 施 年 次
在宅看護論	在宅看護論概論	1	30	2 年次
	方法論Ⅰ 訪問看護の実際	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ 在宅看護技術	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 在宅看護論演習	1	15	3 年次
	・臨地実習	在宅看護論実習	2	90
看護の統合と実践	看護業務と医療安全	1	15	3 年次
	看護業務と医療安全演習	1	15	3 年次
	看護管理	1	15	3 年次
	看護と研究	1	15	3 年次
	看護と研究演習	1	15	3 年次
	災害看護・国際協力	1	15	3 年次
	臨床看護の実践	1	15	3 年次
	専門職業人の育成Ⅰ (看護職のキャリア開発)	1	15	3 年次
	専門職業人の育成Ⅱ (事例学習)	1	15	3 年次
	専門職業人の育成Ⅲ (看護師に求められる資質)	1	15	3 年次
	・臨地実習	統合実習	2	90

在宅看護論

近年、社会構造の変化とともに、人々の生活スタイルや価値観も多様化してきている。保健医療福祉に求められてきているニーズが変化してきた為、病院機能の分化が進み介護保険の見直しが行われ、今後ますます在宅医療に対してのニーズが高まってくることが予想される。

在宅看護においては、保健医療福祉機関の職種と連携を取りながら看護を探求し、実践していくことが求められてきている。

在宅看護は、対象者のセルフケア能力を高め、QOL（生活の質）の向上を目的として看護展開していく。対象者の年齢や健康段階が幅広いことから基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学の学習を基盤として対象に必要な看護を考えていく。

在宅看護論では、「地域で療養している人々とその家族の健康生活を支援すること」、「療養者と家族が生活している地域の保健医療福祉のシステムの特徴をふまえ、それを活用すること」、「看護の独自の役割を果たしていくと共に関係職種と連携・協働していくこと」を学ぶ。

目的

地域において療養しながら生活する人とその家族が望む生活の質を維持し、保健医療福祉システムにおいて調整を行い、生活を支える看護援助の基本を学ぶ。

目標

1. 生活の営みのなかで療養する人とその家族のもつ健康問題を理解する
2. 地域看護の概念を理解し、在宅看護の意義を理解する
3. 在宅看護の目的と役割を理解する
4. 訪問看護の方法と、必要な技術の基礎を習得する
5. 保健医療福祉システムを理解し、社会資源の活用と調整の必要性について学ぶ
6. 家族看護の概念と、家族看護の方法について理解する
7. 在宅での終末期看護について理解する

4 単位 (105 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
在宅看護論概論 在宅看護の概念	1.社会の変化と在宅看護 2.在宅療養者の特徴 3.在宅療養を支える看護 4.在宅看護の目的と倫理的課題 5.保健医療福祉政策と地域保健福祉活動 の理解 6.家族看護の概念 7.家族看護の方法	1	30	2 年次
方法論 I 訪問看護の実際	1.訪問看護ステーションの役割と機能 2.訪問看護の実際 3.訪問看護の記録 4.在宅療養者の状態別看護 5.社会資源の理解と活用	1	30	2 年次
方法論 II 在宅看護技術	1.在宅看護に必要な基本的技術 2.在宅における安全管理 3.在宅における医療管理 4.在宅看護過程 介護保険対象者の事例展開	1	30	2 年次
方法論 III 在宅看護論演習	1.在宅看護過程 医療保険対象者の事例展開	1	15	3 年次
臨地実習 在宅看護論実習	1.在宅において療養しながら生活する人と、 その家族への在宅看護の実際が理解できる 2.地域における健康の保持増進、疾病予防の ための保健・福祉サービスの実践が理解で きる 3.地域における保健・医療・福祉施設の機能 及び各専門職種役割を理解し、相互に連 携を取る必要性について考えられる	2	90	3 年次

在宅看護論概論

講師名 澁谷 春美 杉田 雅絵 平山 利恵 門脇 睦子

目 的

1. 現代社会における地域の保健医療福祉システムと在宅看護の概要を学ぶ。
2. 家族看護の概念と、家族の状況をとらえる視点と家族看護の基本を学ぶ。

目 標

1. 社会の変遷と地域における看護のニーズの変化を理解する
2. 在宅看護の対象を理解する
3. 在宅看護の目的と役割について理解する
4. 保健医療福祉政策と地域医療福祉活動を理解する
5. 家族看護の概念理解する
6. 家族看護の方法について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 社会の変化と在宅看護 (澁谷・杉田) 1) 地域医療を支える看護 (1)地域看護と在宅看護 2) 在宅看護の歴史 (1)訪問看護活動の発祥と発展 (2)訪問看護の歴史 3) 在宅看護にかかわる現状 (1)社会背景 (2)家族構成の変化と介護 2. 在宅療養者の特徴 1) 在宅療養者への看護活動 2) 在宅看護を必要としている人 (1)訪問看護を規定する法律 ・ 高齢者医療の関係法規 ・ 健康保険法 ・ 介護保険法 3) 在宅療養の成立条件 3. 在宅療養を支える看護 1) 訪問看護の特徴 4. 在宅看護の目的と倫理的課題 1) 自立支援と看護 2) 在宅療養者の権利保障 (1)人権の尊重と権利性 (2)在宅看護と倫理性 (3)社会的機能としての看護の責務	8	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
5. 保健医療福祉政策の理解（平山） 1) 在宅ケアを支える制度 (1)保健医療制度 (2)介護保険制度 (3)高齢者を支える制度 (4)難病要綱 (5)障がい者の在宅療養を支える制度 2) 地域包括ケアシステムの体制 (1)地域包括支援センターの機能と役割 (2)関係機関と関係職種 ・保健所 ・保健センター ・地域連携室 ・地域包括ケア病棟 ・居宅介護支援事業所	8	講 義 演 習	筆記試験
6. 家族看護の概念（門脇） 1) 家族看護とは 2) 看護の対象としての家族 3) 健康問題と家族 4) 家族看護の考え方 7. 家族看護の方法 1) 家族に関連した理論 2) 家族看護過程の展開 (1)情報収集 (2)アセスメント (3)計画 (4)家族看護方法 (5)評価	14	講 義	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア	櫻井尚子・渡部月子・臺有佳 編	MC メディカ出版
写真でわかる訪問看護 アドバンス		インターメディカ

在宅看護論方法論 I 訪問看護の実際

講師名 樋口 秋緒 澁谷 春美 杉田 雅絵 平山 利恵

目的

訪問看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1. 訪問看護の活動と特性を理解する
2. 訪問看護を開始するまでの準備を理解する
3. 訪問看護の実際の過程について理解する
4. 在宅療養者の状態別看護を理解する
5. 社会資源の活用を理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 訪問看護ステーションの役割と機能 (樋口) 1) 訪問看護ステーションの設置と管理運営 (1)実施主体 (2)実施形態 (3)管理者 (4)人員・設備および運営基準 2) 従事者 3) 対象者 (1)医療保険 (2)後期高齢者医療 (3)介護保険 4) サービス内容と流れ 5) 利用料 6) 今後の方向性 2. 訪問看護の実際 1) 訪問看護における看護過程の特徴と実際 (1)情報収集 (2)アセスメント (3)計画立案 (4)実施・評価 2) 家庭訪問・初回訪問 (1)家庭訪問とは (2)初回訪問のプロセス 3) ケアマネジメントの過程 3. 訪問看護の記録 1) 訪問看護記録の意義 2) 訪問看護で使用する記録 3) 訪問看護記録を記入するときの留意点 4) 介護サービス計画の作成と評価	14	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
4. 在宅療養者の状態別看護（澁谷・杉田） 1) 長期臥床状態にある療養者と家族への看護 2) 認知症療養者と家族への看護 3) 精神疾患をもつ療養者と家族への看護 4) 療養する子どもと家族への看護 5) 終末期の療養者と家族への看護	8	講 義 演 習	筆記試験
5. 在宅療養を支える社会資源の理解（平山） 1) 事例を用いた社会資源の活用と調整	8	講 義 演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア 写真でわかる訪問看護 アドバンス	櫻井尚子・渡部月子・臺有佳 編	MC メディカ出版 インターメディカ

在宅看護論方法論Ⅱ 在宅看護技術

講師名 澁谷 春美 杉田 雅絵 平山 利恵 樋口 秋緒

目 的

在宅看護に必要な基本技術、日常生活援助技術、医療処置技術を学び、在宅療養者と家族の生活の質の維持・向上を目指す。

目 標

1. 在宅看護に必要な基本技術が実施できる
2. 生活に合わせた看護援助の工夫を考えられる
3. 介護保険対象者の事例をとおして、在宅療養生活に必要な看護を考えられる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 在宅看護に必要な基本的技術 (澁谷・杉田) 1) 初回訪問での対人関係の技術 (1)挨拶 (2)マナー (3)電話対応 (4)準備物品 2) 相談と指導の技術 3) 日常生活に合わせた看護援助の技術 (1)清潔の援助 (2)移動と休息 (3)食事 (4)排泄 (5)生活環境調整 4) 連絡調整と資源開発の能力 (樋口)	12 (8)	講 義 演 習	筆記試験 レポート
2. 在宅における安全管理 (澁谷・杉田) 1) 日常生活の中でおこる問題の予測と予防 (1)病状経過の予測 (2)感染予防の考え方と方法 (3)転倒の予防 (4)窒息の予防 (5)熱傷の予防 (6)閉じこもりの予防 (7)独居高齢者と火災予防 (8)虐待の防止 (9)災害対策	6	講 義 演 習	
3. 在宅における医療管理 (澁谷・平山) 1) 医療管理を必要とする人への援助 (1)薬物療法 (2)酸素療法 (3)人工呼吸療法 (4)中心静脈栄養 (5)CAPD (6)経管・経腸栄養法 (7)褥創管理・ポジショニング (8)医療処置に伴う物品の取扱い	8	講 義 演 習	
4. 介護保険対象者の事例を用いた看護過程展開 (澁谷) 1) 在宅看護の視点 2) 利用者記録 1.2 の情報収集・整理 (1)社会資源活用情報 (2)地域の情報 (3)各種サービス利用情報 (4)利用者生活情報 (5)ADL・IADL 情報	4	講 義 演 習	

3) 利用者記録 3 のアセスメントと優先順位の考え方			
4) 全体像			

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア 写真でわかる訪問看護 アドバンス	櫻井尚子・渡部月子・臺有佳 編	MC メディカ出版 インターメディカ

在宅看護論方法論Ⅲ 在宅看護論演習

講師名 澁谷 春美 杉田 雅絵 佐々木 いづみ 平山 利恵

目 的

在宅看護に必要な看護過程の基本を学ぶ。

目 標

1. 医療保険対象者の事例をとおして、在宅療養生活に必要な看護を考えられる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療保険対象者（筋萎縮性側索硬化症）の事例を用いた看護過程展開	2	講 義	終講試験 レポート
1) 利用者の情報収集・整理（佐々木） (1)筋萎縮性側索硬化症の疾患特徴 (2)利用できる制度	13	演 習	
2) 在宅看護過程（澁谷・杉田・佐々木・平山） (1)利用者記録 1.2.3 (2)全体像 (3)ケアプラン（看護計画）の作成			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア 写真でわかる訪問看護 アドバンス	櫻井尚子・渡部月子・臺有佳 編	MC メディカ出版 インターメディカ

在宅看護論実習

在宅看護論実習の目的

在宅において療養しながら生活する人と、その家族の看護ニーズを把握し、在宅看護が実践できる基礎的能力を養う。また、地域における健康の保持増進、疾病予防のための保健・福祉サービスの実際を理解し、地域看護における各専門職種の役割と、連携の必要性を学ぶ。

在宅看護論実習の目標

1. 在宅において療養しながら生活する人と、その家族への在宅看護の実際が理解できる
2. 地域における健康の保持増進、疾病予防のための保健・福祉サービスの実際が理解できる
3. 地域における保健・医療・福祉施設の機能及び各専門職種の役割を理解し、相互に連携を取る必要性について考えられる

2 単位 (90 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
在宅看護論実習	2 (90)	・在宅において療養しながら生活する人と、その家族の看護ニーズを把握し、在宅看護が実践できる基礎的能力を養う。また、地域における健康の保持増進、疾病予防のための保健・福祉サービスの実際を理解し、地域看護における各専門職種の役割と、連携の必要性を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none">1. 在宅において療養しながら生活する人と、その家族への在宅看護の実際が理解できる2. 地域における健康の保持増進、疾病予防のための保健・福祉サービスの実際が理解できる3. 地域における保健・医療・福祉施設の機能及び各専門職種の役割を理解し、相互に連携を取る必要性について考えられる

看護の統合と実践

看護師は臨床現場において、限られた時間の中で複数の対象者に対して必要な看護を即座に判断し、速やかに提供することが求められている。そのためには、多職種との協働やチーム医療における看護師のメンバーシップ・リーダーシップについての理解や看護マネジメントについての理解が必要となる。

「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱおよび在宅看護論で学習した内容の知識や技術を統合させつつ、一人ひとりのニーズに即した看護を包括的に提供するという、臨床現場で求められる看護実践能力を身につけることを目的としている。

また、今日の医療現場で求められる医療安全や災害看護についての知識・技術、および看護管理や国際看護の学習を通し、看護を幅広い視野でとらえられることも目的としている。

さらに、専門職業人として看護の専門性を改めて考えることも重要であり、医療現場で必要とされる専門職業人の育成をすることも目的としている。

目的

看護の対象者一人ひとりのニーズに即して、安全で良質な看護を包括的に提供するための基礎的能力を養うとともに、医療現場で求められる専門職業人としての能力を養う。

目標

1. 安全な医療・看護を提供するための基本的知識・技術を理解し、対象の状態に応じた看護を実践することができる
2. 看護における研究の意義・方法を理解し実践できる
3. より良い看護を提供するための看護管理を理解することができる
4. 災害看護の基礎的知識を理解することができる
5. 国際社会の一員として看護が果たす役割を理解することができる
6. チーム医療における看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解することができる
7. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントする基礎的能力を身につけることができる
8. 看護の専門性を理解し、専門職業人としての能力を養う

10 単位（150 時間） 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
看護業務と医療安全	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方を学ぶ 3. 診療の補助業務に伴う事故防止 I 4. 診療の補助業務に伴う事故防止 II 5. 療養上の世話における事故防止 6. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 7. 医療安全とコミュニケーション 8. 組織的な医療安全体制の取り組みとわが国の医療安全対策の展望 9. 多重課題への対処 	1	15	3 年次
看護業務と医療安全 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. KYT 事例で考える看護業務の安全 2. 多重課題の対応を考える 事例紹介 3. 事例に基づき多重課題の優先順位と対処法を考える (G・W) 4. 多重課題演習の実践 	1	15	3 年次
看護管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理とは何か 2. 看護管理 3. 組織とは 4. リーダーシップとメンバーシップ 5. 目標管理 6. 看護管理の方法 7. 医療保険制度の仕組み 8. 人材育成とキャリア発達 	1	15	3 年次
看護と研究	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と方法 2. 看護研究の実際 	1	15	3 年次
看護と研究演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文作成 2. 研究発表の仕方 3. ケーススタディ発表会 	1	15	3 年次
災害看護・国際協力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における看護 2. 看護の国際協力 	1	15	3 年次
臨床看護の実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的看護技術の習得 	1	15	3 年次
専門職業人の育成 I (看護職のキャリア開発)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職に求められるキャリア開発 2. 卒後のキャリア・アップ、キャリア開発の実際 3. 活動の場、役割等の違いによる看護師のあり方 	1	15	3 年次

<p>専門職業人の育成Ⅱ (事例学習)</p>	<p>1. 各分野の特徴的な疾患の事例学習 2. 事例発表</p>	<p>1</p>	<p>15</p>	<p>3年次</p>
<p>専門職業人の育成Ⅲ (看護師に求められる資質)</p>	<p>1. 専門職業人、社会人としての高いコミュニケーションスキル 2. 看護職の陥りやすい心理状態 3. 患者の目線 医療者の目線</p>	<p>1</p>	<p>15</p>	<p>3年次</p>
<p>臨地実習 統合実習</p>	<p>1. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践力を高める 2. チーム医療、他職種との協働の中でリーダーシップを理解できる 3. 看護管理・病棟管理の実際と医療安全について理解できる 4. 夜間実習において、看護師の役割の多面性を理解すると共に日勤帯とは異なる対象の理解を深める</p>	<p>2</p>	<p>90</p>	<p>3年次</p>

看護業務と医療安全

講師名 木村 文枝

目 標

1. 看護事故の構造と看護事故防止の考え方を理解することができる
2. 看護業務上の様々な事故発生要因とその防止方法について理解することができる
3. 組織として医療安全対策に取り組む必要性が理解できる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方を学ぶ 3. 診療の補助業務に伴う事故防止 I 4. 診療の補助業務に伴う事故防止 II 5. 療養上の世話における事故防止 6. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 7. 医療安全とコミュニケーション 8. 組織的な医療安全体制の取り組みとわが国の医療安全 対策の展望 9. 多重課題への対処	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践②	川村 治子	医学書院
新体系看護学全書 基礎看護学 2 基礎看護技術 I プリント	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社

看護業務と医療安全演習

講師名 木村 文枝 他

目 標

1. 事例の状況に応じて適切な判断を行うことができ、安全、確実な看護技術を考える能力を養うことができる
2. 多重課題演習において、事例に応じて適切な判断を行い、優先順位を考え、安全で確実な看護技術を提供することができる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評価
1. KYT 事例で考える看護業務の安全	2	GW	提出物と実 技演習
2. 多重課題の対応を考える (事例紹介)	2	GW	
3. 事例に基づき多重課題の優先順位と対処法を考える	3	GW	
4. 多重課題演習の実践	8	演習	

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② プリント	川村 治子	医学書院

看護管理

講師名 上田 真紀子 高橋 由美

目的

管理の機能は看護実践のあるところすべてにおいて必要となる。常に管理的思考を持ちながら実践できるよう、管理の機能・仕組みを理解し、活用していく基礎的能力を養う。

目標

1. 看護管理とは何かを理解し、看護をマネジメントしていく過程を理解する
2. 組織の中で質の高い看護サービスを提供する仕組みを理解する
3. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解する
4. 保健医療制度の基本・仕組みを理解し看護職の責任と役割を理解する
5. 看護職としてどのようにキャリアを発展させていくか考えることができる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評価
第1章 看護とマネジメント (上田) I. 看護管理者と認定看護管理者制度 1. 看護管理とは 2. 看護管理の歴史 3. 看護管理に必要な知識体系	2	講 義	筆記試験
第2章 看護ケアのマネジメント (高橋)	2		
第3章 看護職のキャリアマネジメント(高橋)	3		
第4章 看護サービスマネジメント(高橋)	2		
第5章 マネジメントに必要な知識と体系 (上田)	2		
第6章 看護を取り巻く諸制度 (上田) 看護制度・政策論	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
系統看護学講座 統合分野 看護管理	上泉 和子 他	医学書院

看護と研究

講師名 工藤 幸生

目 標

1. 看護における研究の意義が理解できる
2. 研究の種類と方法が分かる
3. 文献の活用方法を理解する
4. ケーススタディの事例を選定し研究計画書が作成できる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護研究の意義と方法 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義 3) 看護研究の目的と分野 4) 研究の種類 5) 研究の方法	8	講 義	①研究計画書 作成 ②筆記試験
2.看護研究の実際 1) 看護研究のすすめ方：ケーススタディとは 2) 文献検索の方法 3) 研究のまとめ方 (1)論文の書き方、構成 (2)研究者としての倫理 (3)研究計画書の書き方 (4)事例選定	7		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 －研究テーマの設定からレポート作成のポイントまで－ 看護学概論	松本 孚・森田 夏実 藤崎 郁 他	照林社 医学書院

看護と研究演習

講師名 岩崎 加奈子 工藤 幸生 他

目 標

1. 研究計画書をもとに、ケーススタディとして論文をまとめることができる
2. 視聴覚教材などを使い、聞き手にわかりやすく発表できる
3. 聴講生としての立場を理解し、自覚を持って聴講できる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 論文作成 2. 研究発表の仕方 1) 発表原稿の書き方 2) 抄録の書き方 3) 発表の仕方 4) パワーポイント作成 5) 会場設定の方法 3. ケーススタディ発表会 1) 会場設営 2) 役割分担 3) 発表 4) 質疑応答 5) 後片付け	8 7	講 義 演 習 発 表	①論文作成 ②発表内容 や態度な ど評価表 に基づき 全体的に 評価

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 ー研究テーマの設定からレポート作成のポイントまでー	松本 孚・森田 夏実	照林社
看護学概論	藤崎 郁 他	医学書院

災害看護・国際協力

講師名 田口 裕紀子 田中 綾

目 標

1. 災害看護の概念と構造を理解し、災害サイクルに沿った看護活動を行なう必要性が理解できる
2. 災害時の心理的回復過程を理解し、看護師の役割が理解できる
3. 世界の健康問題の現状を理解し、国際社会の一員として看護が果たすべき役割を理解することができる
4. 様々な国際協力のしくみを理解することができる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 災害時における看護 (田口) 1) 災害時の看護の概念と構造 2) 災害と健康 3) 災害サイクルに沿った看護活動 4) 心理的回復の過程 5) 災害への備えとそのシステム 6) 震災から学ぶ災害時の看護	10	講 義	筆記試験
2. 看護の国際協力 (田中) 1) 国際看護の基本理念 2) 世界の健康問題の現状 3) ミレニアム開発目標 4) 国際協力のしくみ	5		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
ナーシンググラフィカ EX 看護の統合と実践③ 災害看護	黒田 裕子 他	メディカ出版
看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院

臨床看護の実践

講師名 吉川 美喜 白石 直美 岩崎 加奈子 平山 利恵 工藤 幸生

目的

1. 卒業時点で看護師として身につけているべき基本的技術を確実に習得し、臨床実践能力の基本を確立させる
2. 習得した知識・技術の統合を図る

目標

1. 看護技術の留意点や科学的根拠を述べられる
2. 原則に基づいて正確に看護技術を実践できる
3. 自己の実践能力を振り返ることができる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 基本的看護技術の習得	5	講 義	授業中やグループワーク時の態度、レポート提出などで総合的に評価
1) 基本的看護技術についてのグループワーク (各技術の留意点・チェック項目を作成)		GW	
2) 演習	10	演 習	
(1)オリエンテーション			
(2)デモンストレーション			
(3)技術演習(使用法・看護技術の実践)			
①採血 ②留置針の留置 ③処方箋の確認			
④アンプル吸い上げ ⑥その他			
⑤輸液管理 (輸液ポンプ・シリンジポンプ)			
(4)病棟における ACLS (心肺蘇生、AED 使用)			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術 II	深井 喜代子 編	メヂカルフレンド社
演習に役立つ基礎看護技術	三上 れつ 他	ヌールヴェルヒロカワ

専門職業人の育成 I (看護職のキャリア開発)

講師名 高橋 久美子

目 的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野 I・II、統合分野で学習した内容の知識を統合させ、医療現場において求められる看護職のあり方を理解するとともに、自己のキャリア形成をイメージ化することができる。

目 標

1. 専門職としてキャリア開発を続ける必要性が理解できる
2. 卒後のキャリア・アップやキャリア開発の実際など、自己のキャリア形成をイメージすることができる
3. 自己の看護観を考えながら、将来の看護師像をイメージすることができる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 専門職に求められるキャリア開発 1) キャリア開発とは何か 2) 継続教育 ①卒後教育 ②現任教育	4	講 義	レポート
2. 卒後のキャリア・アップ、キャリア開発の実際 1) OJT・クリニカルラダー・プリセプターシップなど 2) 卒後教育の実際	7		
3. 活動の場、役割等の違いによる看護師のあり方 1) ジェネラリスト、認定看護師・専門看護師等の活動と役割 2) 看護観とは何か 3) これから求められる看護	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院

専門職業人の育成Ⅱ（事例学習）

講師名 木村 文枝

目 的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野で学習した内容の知識を統合させ、臨床でよく見られる疾患の事例を通して、対象の状態に応じた看護を理解することができる。

目 標

1. 事例をもとに、各看護学の基本的な重要事項を再確認し、各看護学との関連を意識して必要な看護を考える
2. 安全な医療・看護を提供するための基本的知識を統合して理解する
3. 専門職業人として求められる看護実践に必要な知識を身につける

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 各分野の特徴的な疾患の事例学習 1) 終末期の父を支える家族の事例 2) 高齢出産でダウン症の児を出産した事例 3) 統合失調症の青年の社会復帰の事例 4) 軽い認知症の夫を介護する事例 5) 災害で家を失い仮設住宅で暮らす高齢者の事例 ・各グループ1事例の看護を検討する	8	講 義 G・W	発表内容
2. 事例発表 1) 各事例について、対象に応じて考えた看護を発表	7	発表	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図	監修 阿部 俊子	中央法規出版
エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図	監修 阿部 俊子	中央法規出版
ナーシンググラフィカ EX 看護の統合と実践③ 災害看護	黒田 裕子 他	メディカ出版

専門職業人の育成Ⅲ（看護師に求められる資質）

講師名 高橋 久美子 木村 文枝 坂原 直美

目的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野で学習した内容の知識を統合させ、医療現場に求められる看護師としての資質を身につける

目標

1. 専門職業人、社会人としての高いコミュニケーションスキルを身につけることができる
2. 看護職として働き続けるうえで陥りやすい心理状態と、それらに対する対処法を理解することができる
3. 患者の目線に立った看護について、考えを深めることができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 専門職業人、社会人としての高いコミュニケーションスキル（坂原） 1) 受付・外来編 ・初診患者への案内、患者のプライバシーへの配慮、待合室での対応、呼び出し時の対応、診察終了時の対応 など 2) 入院編 ・入院時の対応、病室への案内、問診・インタビュー、ナースコールの対応 など	3	講 義 DVD ロール プレイ	ロール プレイ
2. 看護職の陥りやすい心理状態（木村） 1) もえつき症候群とは 2) もえつき症候群の原因・対処法	6	講 義	レポート
3. 患者の目線 医療者の目線（高橋） 1) 患者の目線に立つとは 2) 患者の目線に立って看護を考えると	6	講 義	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発行所
プリント		

統合実習

目 的

1. 統合実習は看護学実習の最終段階と捉え、より実践に近い体験をすることで3年間の集大成として看護実践能力の習得をする。
2. チーム医療、多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解でき、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。

目 標

1. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践力を高める
2. チーム医療、他職種との協働の中でリーダーシップを理解できる
3. 看護管理・病棟管理の実際と医療安全について理解できる
4. 夜間実習において、看護師の役割の多面性を理解すると共に日勤帯とは異なる対象の理解を深める

2 単位 (90 時間)

区 分	単 位	実習の目的	実習目標
	時間数		
統合実習	2 (90)	<p>1.統合実習は看護学実習の最終段階ととらえ、より実践に近い体験をすることで3年間の集大成として看護実践能力の習得をする。</p> <p>2.チーム医療、多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップが理解でき、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p>	<p>1.既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践力を高める</p> <p>2.チーム医療、多職種との協働の中でメンバーシップおよびリーダーシップを理解できる</p> <p>3.看護管理・病棟管理の実際と医療安全について理解できる</p> <p>4.夜間実習において、看護師の役割の多面性を理解するとともに、日勤帯とは異なる対象の理解を深める</p>